方言辞典づくりから見えた宮古島方言の特性
～方言の内包する表現の豊かさについて～

島尻　澤一（宮古島市編さん委員会委員）

はじめに

ユネスコ「国連教育科学文化機関」は 2009 年 2 月に世界中で話されている言語の中で消滅の危機にある言語について報告している。その数は 2500 あるが、報告では「言語」と「方言」を区別することなく、全ての地域で話されている言葉を網羅してひとつの言語とし「何々語」と表記している。その中には琉球列島の各地で話されている方言が一つ一つの言語と数えられ琉球圏に関する言語として報告されている。奄美の各離島も含めたすべての方言をまとめて「奄美語」、沖縄の北部の離島も含めたすべての方言をまとめて「国頭語」、首里を中心に沖縄の中部、南部を離島も含めてそれぞれで話されている方言をまとめて「沖縄語」、宮古島の離島も含めて話されている方言をまとめて「宮古語」、八重山は与那国を除いたすべての離島を含めて話されている方言を「八重山語」、与那国は一つの言語として「与那国語」と規定し６地域の方言が消滅危機の言語と規定している。ユネスコはその中でも「与那国語」「八重山語」は非常に消滅の危機にあると指摘している。しかし、残りの「奄美語」「国頭語」「沖縄語」「宮古語」も消滅の危機においてはほとんど同じような状況に変わりはなく、今後、危機回避のための方策を進めていくことが重要と提言している。個人的な考えとして、今後消滅を回避する方法としては地域ごとに方言辞典などを編集していくことが最善の方法と考える。

そこで消滅の危機にある宮古方言「宮古語」を残す取り組みとして辞典を編集することにした。その作業の中で発見したした事、気づいた事が数多くあり、編集する中で私が気付いた宮古方言の内包する豊かさを報告したいと思う。

1. 辞典編集の基本的な方針。

〈収録語彙に付いて〉

・著者が生まれ育ち生活語とした旧上野村野原方言を収録した。但し野原が農村地域として海洋生物の方言が少ないために漁村である伊良部方言辞典、久松方言集から海洋生物に関する語彙は参考にした。

・語彙の収集は著者の内省によった。

・語彙については、障害のある人たちに関して現在は差別用語と言われる語彙、性に関する語彙、現在の人権意識から不適切と言われる語彙も全て網羅して収録した。

〈表記について〉

・「しまくとぅば正書法検討委員会」が県に答申した「沖縄県における『しまくとぅば』の表記について」に依拠し用いた。

・方言表記の全ては宮古語カナ表記表(沖縄県文化観光スポーツ部)に依拠した。

・見出し語については、表記をカタ仮名表記とし、国際音声記号を付記した。

・見出し語には全てに用例文を付けた。用例文は〈日本語文例〉「方言カタカナ文例」[方言の音声表記文例]を付けた。

・全ての語彙に品詞を表記した。

・見出し語の意味が複数の場合は、①②③の番号をつけて表記し、別々の言葉としてそれぞれに用例文を表記した。

・見出し語一つに用例文が複数の場合は文の頭に◎を付けた。

宮古語（琉球宮古方言）カナ表記表（沖縄県文化観光スポーツ部）

ア [ʔa] [a]	イ [ʔi] [i]	ウ [ʔu] [u]	エ [ʔe] [e]	オ [ʔo] [o]	イ゜ [z] [zʲ] [ɿ][i][ï]				
カ [ka]	キ [ki]	ク [ku] [kɷ]	ケ [ke]	コ [ko]	クス [ks][kˢï] [kɿ][ki]	キャ [kja]	キュ [kju]	キョ [kjo]	クワ [kwa]
ガ [ga]	ギ [gi]	グ [gu] [gɷ]	ゲ [ge]	ゴ [go]	グズ [gz][gᶻï] [gi]	ギャ [gja]	ギュ [gju]	ギョ [gjo]	グワ [gwa]
サ [sa]		スゥ [su]	セ [se]	ソ [so]	ス [s][sɿ] [sï][si]				
シャ [ʃa]	シ [ʃi]	シュ [ʃu]	シェ [ʃe]	ショ [ʃo]					
ザ [dza]		ズゥ [dzu]	ゼ [dze]	ゾ [dzo]	ズ [dz][dzɿ] [dzï][dzi]				
ジャ [dʒa]	ジ [dʒi]	ジュ [dʒu]	ジェ [dʒe]	ジョ [dʒo]					
ザ゜ [za]		ズ゜ゥ [zu]	セ゜ [ze]	ゾ゜ [zo]	ス゜ [z] [zɿ] [zï][zi]				
シ゜ャ [ʒa]	シ゜ [ʒi]	シ゜ュ [ʒu]		シ゜ョ [ʒo]					
タ [ta]	ティ [ti]	トゥ [tu]	テ [te]	ト [to]		テャ [tja]	テュ [tju]	テョ [tjo]	
ダ [da]	ディ [di]	ドゥ [du]	デ [de]	ド [do]		デャ [dja]	デュ [dju]	デョ [djo]	
ツァ [tsa]		ツゥ [tsu]		ツォ [tso]	ツ [ts][tsɿ] [tsï][tsi]				
チャ [tʃa]	チ [tʃi]	チュ [tʃu]	チェ [tʃe]	チョ [tʃo]					
ナ [na]	ニ [ɲi]	ヌ [nu]	ネ [ne]	ノ [no]		ニャ [ɲa]	ニュ [ɲu]	ニョ [ɲo]	

ファ [fa]	フィ [fi]	フゥ [fu]	フェ [fe]	フォ [fo]		フャ [fja]	フュ [fju]	フョ [fjo]	
ハ [ha]	ヒ [hi]	ホゥ [hu]							
パ [pa]	ピ [pi]	プ [pu]	ペ [pe]	ポ [po]	プス [ps][pˢi] [pɿ][pɨ]	ピャ [pja]	ピュ [pju]	ピョ [pjo]	
バ [ba]	ビ [bi]	ブ [bu]	ベ [be]	ボ [bo]	ブズ [bz][bᶻi] [bɿ] [bɨ]	ビャ [bja]	ビュ [bju]	ビョ [bjo]	
ヴァ [va]	ヴィ [vi]	ヴゥ [vu]	ヴェ [ve]	ヴォ [vo]		ヴャ [vja]	ヴュ [vju]		
マ [ma]	ミ [mi]	ム [mu]	メ [me]	モ [mo]	ムズ [mz][mᶻi] [mɿ][mɨ]	ミャ [mja]	ミュ [mju]	ミョ [mjo]	
ヤ [ja]		ユ [ju]		ヨ [jo]					
ラ [ɾa]	リ [ɾi]	ル [ɾu]	レ [ɾe]	ロ [ɾo]		リャ [ɾja]	リュ [ɾju]	リョ [ɾjo]	
ワ [wa] [ʋa]									

（長音）ー　（促音）ッ　（撥音）ン［n,m,ŋ,ɴ］

音節主音的子音〔大神島、伊良部島〕

クフ　ムル　プル　ブル
[kf]　[ml]　[pl]　[bl]

子音単独

ン　フ　ヴ　ム゜　リ゜,ル゜
[n]　[f]　[v]　[m]　[l]

前舌半広母音〔大神島〕

ケェ　ペェ
[kɛ]　[pɛ]

無声化〔池間島、宮古島市西原、伊良部佐良浜〕

ン。
[n̥ m̥]

2. 宮古方言の閉節音の特性と豊かさ。

⑴　閉節音「ン」[n]、「ム˚」[m] につて
〈「ン」[n]、「ム˚」[m]が違った意味を持つ〉

・日本語には閉節音〈ん〉は一つしか存在しないが、宮古方言には「ン」[n]と「ム˚」[m]の二つの閉節音があり、それぞれが違った意味と役割を持っている。次にその例を示す。

〈一音節の語例〉

・<うん、はい>「ンー」[n:]　・「ンーガナ」[n: gana]
・<芋>「ム˚ー」[m:]　・<芋の皮>「ム˚ーガー」[m: ga:]
・<果実が熟する>「ム˚ー」[m:]　◎<蜜柑が熟する>「フゥニイ˚ッス˚ゥ　ム˚ー」[funiïzzu　m:]

・否定の意志表示「～ム˚」[～m]
・〈しない〉「スゥーム˚」[su:m]◎<仕事はしない>「スグトゥーバー　スゥーン」[sïgutu:ba:su:n]
・状況、状態の否定表現「～ン」[～n]
・〈いない〉「ウラン」[uran]◎<馬はいない>「ヌーマー　ウラン」[nu:ma:　uran]
・状況、状態の肯定の表現「～ム˚」[～m]
・<黒くなる>「フフゥム˚」[ffum]

〈語尾に「ン」[n]、「ム˚」[m]のある語例〉

・<蟹>「カン」[kan]
・<神>「カム˚」[kam]
・<噛む>「カム˚」[kam]

・<何>「ナン」[nan]
・<波>「ナム˚」[nam]
・<舐める>「ナム˚」[nam]

・<似ている>「ンーギ」[ŋ:gi]
・<芋蔓>「ム˚ーギ」[m:gi]

＊宮古方言においては閉節音〈ん〉が語頭に付く。

<語頭に「ン」[n]、「ム˚」[m]のある語例>

・<皆>「ンーナ」[n:na]
・<蝸牛>「ム˚ーナ」[m:na]

・<似ている>「ンーヌ」[n:nu]
・<芋が>「ム˚ーヌ」[m:nu]

・<神酒>「ンクス」[ŋkï]
・<熟しすぎる>「ム˚ークス」[m:kï]

・<多い>「ンチュー」[ntʃi:]
・<持っている>「ム˚チュー」[mtʃu:]

・<満たせ>「ンタシ」[nta ʃi]
・<持たせ>「ム˚タシ」[mta ʃi]

・<百足>「ンカザ」[ŋkadza]
・<芋の香り>「ム˚ーカザ」[m:kadza]

・<似たような>「ンーダカリー」[n:Dakari:]
・<芋のような>「ム˚ーダカリー」[m:Dakari:]

・<対面する>「ンコー」[ŋko:]
・<芋買い>「ム˚ーコー」[m:ko:]

〈同音異義語〉

・<退く>「ンナイ˚」[nnaï]◎<横に退く>「ユカーランカイ　ンナイ˚」[juka:raŋkai　nnaï]
・<握る>「ンナイ˚」[nnaï]◎<米を握る>「マイ˚ッス˚ゥ　ンナイ˚」[maïzzu　nnaï]

〈「ン」[n]一字で接尾語、助詞、感動詞など様々な機能を持つ〉

～ン[n]〈接尾語〉度。回。回数を数える度数詞。
◎〈一度は謝れ〉「プストゥンナ　ワビル」

[pïtunna　wabiɾu]◎<三度　行ったが会えなかった>「ミイ゜ン　イクスタースゥガドゥ　イデャーイッタム゜」[miïn　ikïta:sugadu idja:ittam]◎<四度負けた>「ユヌン　マキター」[junun　Makita:　]◎<二度とは会えない>「フゥタンティヤ　イデャーイン」[futabtija　idja:iŋ]

〜ン[n]〈助動詞〉〜ない。否定。◎<彼はここには居ない>「カリャー　クマンナ　ウラン」[kaɾja:　kumanna　uɾaŋ]◎<私は金はない>「バヤー　ジンナ　ニャーン」[baja:　dʒinna ɲa:ŋ]◎<彼は来ないので先に行く>「カリャークーンニバ　サダリ　ピラディ」[kaɾja:ku:nniba　sadaɾi　piɾadi]◎<丹念に探して見つからない>「マサーガン　トミローマイトゥミライン」[masa:gan　tumiɾo:mai tumiɾain]

〜ン[n]〈助動詞〉〜ない。動詞未然形について打消しを表す。◎<彼は行かない>「カリャー　イカン」[kaɾja:　ikaŋ]◎<どこを探してもいない>「ンゾー　トゥミローマイ　ニャーン」[ndzo:　tumiɾo:mai　ɲa:ŋ]◎<いかない人は手を挙げろ>「イカンプストー　ティーユ　アギル」[ikanpïto:　ti:ju　akiɾu]◎<君は座らないのか>「ヴヴァー　ブスッサ゜ンナー」[vva:bïzzanna:]◎<花は咲かない>「パナー　サカン」[pana:　sakaŋ]

〜ン[n]〈助動詞〉ない。助動詞の未然形について否定を表す。◎<二度と来ない>「フゥタンテャー　クーン」[futantja:　ku:n]◎<後悔はしない>「コーカイユバー　スゥーン」[ku:kaijuba:　su:n]

〜ン[n]〈助詞〉〜に。格助詞。体言及び体現に準ずる語につく。

①動作・作用のある時間を指定する。◎<二時に私の家に来い>「ニジン　バガヤーンカイクー」[nidʒin　baga　ja:ŋkai　ku:]◎<太陽は六時に上がる>「ティダー　ロクジンドゥアガイ゜」[tida:　ɾokudʒindu　agaï]

②動作・作用のある所、方角を示す。[nu:man nu:ɾi]◎<机に座る>「ツクイン　ブスー」[tsïkuin　bïʒʒi]◎<僕は家に居る>「バヤーヤーンドゥ　ウー」[baja:　ja:ndu　u:]

③作用の変化の結果。◎<先生になる>「シンシーン　ナイ゜」[ʃinʃi:n　naï]◎<美人になる>「ゾーギン　ナイ゜」[dzo:gin　naï]

④動作の対象。◎<彼に殴られる>「カイン　ミンガイ」[ten　miŋgai]◎<船に乗り遅れる>「フゥヌン　ヌーイ゜ウクリ」[funun nu:ïukuɾi]◎<馬に乗りなさい>「ヌーマンヌーリ」

⑤作用の原因。◎<太陽に焼かれる>「ティダンヤカイ」[tidaɲakaï]◎<蜂に刺される>「バツンササイ」[patsïn　sasai]

〜ン[n]〈格助詞〉〜に。

①動作の行われる縁由を示すもの◎<仕事に追いまくられた>「スグトゥン　アギイサーター」[sïgutundu　agimaisa:ta:]◎<病気にかかって休む>「ヤム゜ン　ナリー　ユクー」[jumn nari:　juku:]

②動作の主を表すもの。◎<猫にかまれた>「マユン　フファイ」[majun　ffai]◎<牛に追われる>「ウスン　ウキクスサイ」[usïn　uikïsai]

③存在する場所や者を表わすもので「ある」「ない」に伴ってもちいられる。◎<金は財布の中にある>「ジンナ　ジンフクルン　アー」[dʒinna dʒinfuɾun　a:]◎<誰に会ったか覚えていない>「トーンガ　イデョーターガラ　ウブイヤウラン」[to:ga　jata:gaɾa　ubuija　uɾan]

④対象語を表す。◎<兄に上げる>「アザンフィー」[adzan　fi:]◎<馬に乗る>「ヌーマンヌーイ゜」[nu:man　nu:ï]

〜ン[n]〈助詞〉〜に。体言につけて副詞にする。◎<大事にする>「ダイズン　スス」[daidzïn

sïsï]◎〈一生懸命に働く〉「イザイディン　パタラクス」[idzaidin　pataɾakï]◎〈まともに見た〉「マトゥムン　ミーター」[matumun mi:ta:]

①動作を重ねてその意味を強める。◎〈間に合わそうと急ぎに急ぐ〉「マニャーサッティーアワティンナ　アワティ」[maɲa:satti: awatinna　awati]◎〈待ちに待った友達が来た〉「マツンナ　マチューター　トゥスヌドゥクスター」[matsïnna matʃu:ta:　dusïnudu kïsïta:]

②割り当て割合を示す。◎〈このクジは二人に一人は当たる〉「クヌ　フゥッツァ　フゥターイ゜ン　タヴキャーヤ　アタイ゜ドゥス」[kunu futstsa　futa:ïn　tavkja:ja　ataïdusï]◎〈一日に三度の飯を食う〉「プストゥイ゜ン　ミイ゜ンヌ　ムヌー　フォー」[pïtuïn　miïnnu munu:　fo:]

③物を列挙する。◎〈君に彼に上げても残る〉「ヴヴァン　フィーローマイ　ヌクイ゜ドゥス」[vvan　fi:ɾomai　nukuïdusï]

〜ン[n]〈格助詞〉〜で。

①動作の行われる場所を示すもの。◎〈家で仕事をする〉「ヤーンドゥ　スグトー　スス」[ja:ndu　sïgutu:　sïsï]◎〈こちらで初めて聞きました〉「クマンドゥ　マズミティ　クスクスター」[kumandu　madzïmiti　kïkïta:]

②動作の行われる縁由を示すもの。◎〈君のおかげで出来た〉「ヴヴァガ　ウカギン　シライター」[vvaga　ukagin　ʃiɾaita:]◎〈仕事でで忙しかった〉「スグトゥシードゥ　パンターパンタ　ウーター」[sïgutuʃidu　panta;panta u:ta:] ◎〈台風で家が壊れる〉「カジフゥクスンヤーユ　トーリ」[kadʒifukïŋi　ja:ju to:ri]

ンー[n:]〈感動詞〉はい。「ンーガナ」[ŋ:gana]とも言う。了解するときの目下の人への返事。◎〈はい!その通りだよ〉「ンー　ウイガニャーンサイ」[n:　uigaɲa:nsai]◎〈はい。言う通りします〉「ンー　アイ゜ガニャーン　スゥーディ」[n:　aïgaɲa:n　su:di]

〈他の語彙と接続して多様な役割や意味を持つ〉

〜ンナ[ŋna]〈助詞〉〜には。◎〈庭には花が咲いている〉「ミナカンナ　パナヌドゥ　サキュー」[minakanna　pananudu　sakju:]◎〈彼には嫁さんがいる〉「カインナ　ユミヌドゥ　ウー」[kainna　juminudu　u:]◎〈空には星が出ている〉「ティンナ　プスヌドゥ　イデュー」[tunna　pusïnudu　idju:]

◎〈兄には似合わない〉「アザンナ　ンナーン」[adzan:　nna:n]◎〈雨には濡れるな「アミンナム゜ミナ」[aminna　mmina]◎〈兄には農家を弟には漁師をさせる〉「アザンナ　パリシャーユウトゥトンナ　イム゜ユ　シミ」[adzanna paɾiʃa:ju　ututunna　imbo:ju　ʃimi]

〜ンナ[ŋna]〈助詞〉

①〜に。◎〈行こうと思うが行くに行けない〉「イカッティー　ウムースゥガドゥ　イクスンナ　イカイン」[ikatti:　umu:sugadu　ikïnna　ikaiŋ]

◎〈彼のことを思いに思って訪ねて行った〉「カイガ　クトゥードゥ　ウムインナ　ウムイー　ミーガ　イクスター」[kaiga　kutu:du　umuinna　umui: mi:ga　ikïta:]

②〜には。〈彼は今のままでは大成しない〉「カリャー　ンナマンシー　ウーツカー　ムヌンナナラン」[kaɾja:　nnamanʃi:　u:tsïka:　mununa naraŋ]

〈閉節音から始まる語彙がある〉

・日本語は閉節音から始まる言葉がない。したがって、言葉の尻取りゲームは語尾が閉節音

「ん」の言葉を発した者は負けとなる。しかし、宮古方言は語頭、語尾に閉節音である語彙は1000語近くに及ぶ。次のその語例と文例の一部を提示する。

(2)閉節音が語頭に付く語例の一部を示す

ム゜[m]

ム゜[m]〈接尾〉～している途中に。
①<物を買っているとき彼に会った。>「ムヌーコーム゜ティー　ウイバドゥ　カイトゥ　イデョーター」[munu:　ko:mti:　uibadu　kaitu　idjo:ta:]
②<縫っているときに怪我した>「ヌーム゜ティー　ウーティドゥ　ヤマスター」[nu:mti:　u:tidu　jamasïta:]

ム゜[m]〈接尾語〉否定の意志表現。
①～しない。<それだけは何と言われてもしない>「ウイチャーンナ　ノーシー　アンザイローマイ　スゥーム」[uitʃa:nna　no:ti:　andzaiɾo:mai　su:m]
②～ない。<そんなことはあり得ない>「アンチヌ　クトー　ニャーム゜」[antʃinu　kuto:　ɲa:m]

ム゜[m]〈接尾語〉～なる。「ナイ゜」[naï]とも言う。
◎<空が黒くなる>「ティンヌドゥ　フフゥム゜」[tinnudu　ffum]◎<顔が赤くなる>「ミバナヌドゥ　アカム゜」[mipananudu　akam]

～ム゜[m:]〈連語〉～になるぞ。～するぞ。◎<雨が降るぞ。洗濯物を片付けろ>「アミヌ　フゥスム゜ドー　アライ゜ムヌー　トゥンキ」[aminu　fuïmdo:　aɾaïmunu:　tuŋki]◎<やがて先生が来るぞ。迎えの準備をしなさいよ>「ヤガティシンシーガ　ム゜ミャイ゜ム゜ドー　ンカイヌスコーリヨー」[jagati　ʃinʃi:ga　kïsïmdo:　sïko:ɾijo:]

ム゜[m]〈助詞〉～に。格助詞。体言及び体現に準ずる語につく時。つく語彙の末尾音が「ム゜」[m]の時助詞「に」は「ム゜」[m]で表れる。
①時間や場所。◎<浜で遊ぶ>「パマム゜　アスプス」[pamam　asïpï]
②動作の終着点。◎<馬に乗る>「ヌーマム゜ヌーイ゜」[nu:mam　nu:ï]◎<神に助けられる>「カム゜ム゜　タスキライ」[tsïkiin]
③作用の変化の結果。◎<水が雲になった>「ミズヌドゥ　フゥム゜ム゜　ナイ゜ブスーヌ」[ʃinʃi:n　naï]◎<岩が神になる>「ウプイスヌドゥ　カム゜ム゜　ナイ゜ター」[kamm　naï]
④動作の対象。◎<やどかりに噛まれる>「アマム゜ム゜　フファイ」[amamm　ffai]◎網に掛かる>「アム゜ム゜　カカイ゜」[amm　kakaï]

ム゜ー[m:]〈名詞〉芋。<芋ほりに行く>「ム゜ープイ゜ガ　イクス」[m:puïga　ikï]

ム゜ー[m:]〈動詞〉熟れる。<果実が熟する>「ナイ゜ムヌヌドゥ　ム゜ー」[naïmununudu　m:]

ム゜ー[m:]〈動詞〉紡ぐ。紬<昔の祖母たちはよく麻糸紬をやっていた>「ンキャーンヌ　ム゜マターヤ　ユードゥ　ブーユ　ム゜ミー　ウーター」[ŋkja:nnu　mmata:ja　ju:du　bu:ju　mmi:　u:ta:]

ム゜ーアキャーダ[m:akja:da]〈名詞〉芋行商人。<昔は芋行商人が居た>「マイヤ　ム゜ーアキャーダヌドゥ　ウーター」[maija　m:akja:danudu　u:ta:]

ム゜ーアロー[m:aɾo:]〈名詞〉芋洗い。<芋洗いは集落の堀池でやった>「ム゜ーアローユバー　ブラクヌ　カーズクンドゥ　ススター」[m:aɾo:juba:　buɾakunu　ka:dzïkundu　sïsïta:]

ム゜ーイ゜ッシ゜マイ゜[m:ʒʒimaï]〈名詞〉米に芋を混ぜた飯。<米のできない宮古では米に芋を混ぜた飯が多かった>「マイ゜ヌ　イビラインミャークンナ　ム゜ーイ゜ッシ゜マイ゜ッス゜ゥ

ドゥ　フォーター」[maïnu　ibirain mja:kunna　m:ʒʒimaïzzudu　fo:ta:]

ム˚ーイ˚ッズゥ[m:ïzzu]〈名詞〉六尋。〈この縄は六尋です〉「クヌ　ナーヤ　ム˚ーイ˚ッス˚ゥ」[kunu　na:ja　m ïzzu]

ム˚ーイビ[m:ibi]〈名詞〉芋植え。〈芋植えは皆の仕事です〉「ム˚ーイビヤ　ム˚ーナガ　スグトゥサイ」[m:ibija　m:naga　sïgutusai]

ム˚ーヴー[m:v:]〈名詞〉〈平良の市場に芋売りに行く〉「プˢサラヌ　マツンカイ　ム˚ーヴーガ　イクˢ」[pïsaɾanu matsïŋkai　m:v:ga　ikï]

ム˚ーガー[m:ga:]〈名詞〉芋皮。〈芋の皮は豚の餌です〉「ム˚ーガーヤ　ワーヌ　ムティ」[m:ga:ja　wa:nu　muti]

ム˚ーガー[m:ga:]〈名詞〉芋皮。転じて利用して残った物の意味で役に立たない人。〈彼は何をさせても不器用な役立たずだ〉「カリャーノーユ　シミローマイ　ムギーヤシヌ　ム˚ーガーダラ」[kaɾja:　no:ju　ʃimiɾo:mai mugi:jaʃinu　m:ga:daɾa]

ム˚ーカジ[m:kadʒi]〈名詞〉鍬での芋掘り。芋の収穫。「ム˚ープイ˚」[m:puï]とも言う。〈母は芋掘りに行った〉「アンナー　ム˚ーカジガドゥプˢイ˚ター」[anna:　m:kadʒigadu　pïïta:]

ム˚ーカス[m:kasï]〈名詞〉芋の粕。芋の澱粉を取った後の粕。

ム˚ーガタ[m:gata]〈名詞〉熟れる頃。熟する頃。〈クワバはやがて熟れる頃だ〉「バンチキローヤヤガティ　ム˚ーガタサイガ」[bantʃikiɾo:ja jagati　m:gatasaiga]

ム˚ーギ[m:gi]〈名詞〉芋蔓。芋の蔓。〈芋の蔓は牛がよく食べる〉「ム˚ーギューバー　ウスヌドゥ　ユー　フォー」[m:gju:ba:　usïnudu ju:　fo:]〈芋蔓が馬の好物です〉「ム˚ーギヌドゥ　ヌーマヌ　ユー　フォームヌサイ」[m:ginudu　nu:manu　ju:　fo:munusai]

ム˚ーキ[m:ki]〈名詞〉果実が熟しすぎて腐れること。〈長く置いてあったら桃が腐れている〉「ナギャーフゥウツキーウキバドゥ　ムム˚ヌ　ム˚ーキー　ウー」[nagja:fu　utsïki:　ukibadu　mumnu　m:ki:　u:]

ム˚ーギカイ˚[m:gikaï]〈名詞〉苗づくりで芋蔓を切りとること。〈苗づくりで芋蔓を切りとる〉「ム˚ーキザニュー　スゥーッティドゥ　ム˚ーギカイ˚ッス˚ゥ　スス」[m:gisaɲu: su:ttidu　m:gikaïzzu　sïsï]

ム˚ーギグル[m:giguɾu]〈名詞〉枯れた芋蔓。〈枯れた芋蔓は薪にした〉「ム˚ーギグルーバー　タムヌンドゥ　ススター」[m:giguɾu:ba: tamunundu　sïsïta:]

ム˚ーギザニ[m:gidzani]〈名詞〉芋の苗。〈芋の苗は蔓を切って作った〉「ム˚ーザニューバー　ム˚ーギュー　キシードゥ　ツゥフゥター」[m:gidzaɲu:ba:　m:gju:　kiʃi:du tsufuta:]

ム˚ーギナカ[m:ginaka]〈連語〉芋蔓の中。〈芋蔓の中は歩き難い〉「ム˚ーキナカー　アイ˚クˢグリムヌ」[m:ginaka:　aïkïgurimunu]

ム˚ーギヌ　アイズゥー[m:ginu　aidzu]〈名詞〉芋の葉の和え物。〈芋の和え物はよく食べたんだよ〉「ム˚ーギヌ　アイズゥーユバー　ユードゥ　フォーター」[m:ginu　aidzu:juba ju:du　fo:ta:]

ム˚ーギヌ　ナイ[m:ginu　nai]〈名詞〉植えるための芋蔓。〈植えるための芋蔓は畝を立てて植えた〉「イビガマタヌ　ム˚ーギヌ　ナイユバー　マニャー　タティードゥ　イビター」[ibigamatanu　m:ginu　naijuba:　manju: tati:du　ibita:]

ム˚ーギヌ　パー[m:ginu　pa:]〈名詞〉芋蔓の葉っぱ。〈芋蔓の葉っぱは野菜として食べる〉「ム˚ーギヌ　パーユバー　スゥーヤシドゥフォー」[m:ginu　pa:juba:　su:jaʃi:du fo:]

ム˚ーギヌ　パージューシャ[m:ginu　pa:dʒu:ʃa]〈名詞〉芋蔓の葉っぱの雑炊。〈芋蔓の葉っぱの雑炊はよく食べた〉「ム˚ーギヌ　パージューショーバー　ユードゥ　フォーター」[m:ginu pa:dʒu:ʃo:ba:　ju:du　fo:ta:]

ム˚ーギヌ　パナ[m:ginu　pana]〈名詞〉芋の花。〈芋の華は綺麗です〉「ム˚ーヌパナー　キチギサイ」[m:ginu　pana:　kitʃigisai]

ム˚ーギバリ[m:gibari]〈名詞〉芋畑。〈以前はあちこちに芋畑があった〉「マイヤ　ウマカマンドゥ　ム˚ーバリヌ　アター」[maja umakamandu　m:barinu　ata:]

ム˚ーキャー　マチ[m:kja:　matʃi]〈連語〉熟するまで待て。〈果物は熟するまで待って捥ぎ取る〉「ナイ˚ムヌーバー　ム˚ーキャー　マチッティドゥ　ムイ˚」[naïmunu:ba:　m:kja:　matʃittidu　muï]

ム˚ーク[m:ku]〈名詞〉膿。うみ。〈御出来が熟んで膿が出ている〉「ヌバタヌドゥ　ム˚ミー　ム˚ークヌ　イデュー」[nubatanudu　mmi:　m:kunu　idju:]

ム˚ークズ[m:kudzï]〈名詞〉芋茎。〈芋茎は捏ねて芋餅を作った〉「ム˚ークズッス˚ゥバー　ンナリードゥ　ムッツゥ　ツゥフゥター」[m:kuzzuba:　nnaridu　mutstsu　tsufuta:]

ム˚ークズパム˚ビン[m:kudzïpambin]〈名詞〉芋屑天ぷら。屑芋からとった澱粉の油揚げ。〈芋屑てんぷらは美味しい〉「ム˚ークズパンビンナ　ム˚マムヌ」[m:kudzïpambinna　mmamunu]

ム˚ーサニ[m:sani]〈名詞〉芋の苗。芋の種。「サニム˚ー」[sanim:]とも言う。〈今日は芋の種を植える〉「キューヤ　ム˚ーサニュードゥ　イビガマタ」[kjau:ja　m:saɲu:du　ibigamata]

ム˚ーシャ[m:ʃa]〈名詞〉のろま。〈のろまは何をさせても遅い〉「ム˚ーシャー　ノーユシミローマイ　ヌカムヌサイ」[m:ʃa:　no:ju ʃimiɾo:mai　nukamunusai]

ム˚ータ[m:ta]〈名詞〉イヌビワの実。〈以前いぬびわの実はよく食べた〉「ンキャーンナ　ム˚ータヌドゥ　ヤラビヌ　フォームヌ　ヤター」[ŋkja:nna m:tanudu　jaɾabinu　fo:munu　jata:]

ム˚ータギー[m:tagi:]〈名詞〉植物。イヌビワ。（クワ科）。黒い実が生り柔らかくて美味である。

ム˚ーダリ[m:daɾi]〈名詞〉家畜の飼料。煮た屑芋などを擦り潰して水に混ぜた家畜の飼料。〈家畜の飼料を造るのは私の役割だった〉「ム˚ーダリューツゥフファ　バガ　カターキドゥ　ヤター」[m:daɾju:　tsuffa　baga　kata:kidu　jata:]

ム˚ーティ[m:ti]〈名詞〉六年。〈結婚してから六年なる〉「ササギュー　ッシッティカラ　ム˚ーティドゥ　ナイ˚」[sasagju:　ʃʃittikaɾa　m:tidu　naï]

ム˚ーティナティ[m:tinati]〈名詞〉六年前。〈六年前にここに移ってきた〉「ム˚ーティナティドゥ　クマンカイ　ウツリー　クスター」[m:tinatidu　kumaŋkai　utsïɾi:　kïsïta:]

ム˚ーツ[m:tsï]〈名詞〉六つ。六歳。〈息子は六歳になった〉「ビキヴヴァー　ム˚ーツドゥ　ナイ˚」[bikivva:　m:tsïdu　naï]

ム˚ーナ[m:na]〈名詞〉みんな。全員。全て。全部。〈家族全員元気です〉「ヤーデャー　ム˚ーナガンズゥーヤシドゥ　ウー」[ja:dja:　m:na gandzu:jaʃidu　u:]

ム˚ーナ[m:na]〈名詞〉陸棲無脊椎動物。蝸牛。カタツムリ。（カタツムリ科）〈カタツムリも以前は食べた〉「ム˚ーノーマイ　マイヤ　フォードゥスター」[m:no:mai　maija　fo:dusïta:]

ム˚ーナ[m:na]〈名詞〉無駄。役立たない。〈伊良部方言〉

ム˚ーナガ　タマ[m:naga　tama]〈名詞〉みんなの分け前。〈それはみんなの分け前です〉「ウリャー　ム˚ーナガ　タマサイ」[uɾja:　m:naga　tamasai]

ム˚ーナガ　ムティ[m:naga　muti]〈名詞〉みんなの分。〈みんなの分は分けておいてある〉

「ム˚ーナガ　ムテューバー　バキードゥ　ウツキュークス」[m:naga　mutju:ba:　baki:du　utsïkju:kï]

ム˚ーナガムヌ[m:nagamunu]〈名詞〉みんなの物。〈みんなの分は後から来ます〉「ム˚ーナガ　ムノー　アトゥカラドゥ　クスス」[m:naga　muno:　atukaɾadu　kïsï]

ムーナカラ[m:nakaɾa]〈名詞〉みんなから。〈みんなから受けた恩は死ぬまで忘れません〉「ム˚ーナカラ　ムローター　ウングスッス˚ゥバー　スンキャー　バシン」[m:nakaɾa　muɾo:ta:　uŋgizzuba:　sïŋkja:　baʃiŋ]

ム˚ーナガ　ム˚ーナ[m:naga　m:na]〈名詞〉みんながみんな。全員が。〈全員が行く必要はありません〉「ム˚ーナガ　ム˚ーナ　イクス　ヒツユーヤ　ニャーン」[m:naga　m:na　ikï　hitsïju:ja　ɲa:ŋ]

ム˚ーナグル[m:naguɾu]〈名詞〉かたつむりの殻。貝殻。

ム˚ーナーキ[m:na:ki]〈名詞〉半分。〈半分ずつに分けあって食べる〉「ム˚ーナキナー　バキーナカーリフォー」[m:na:kina:　baɾi　naka:ɾifo:]

ム˚ーナーキ　スス[m:na:ki　sïsï]〈名詞〉半分する。中途半端にする。〈仕事は中途半端にするな〉「スグトゥーバー　ム˚ーナーキ　スス　ススナ」[sïgutu:ba:　m:na:ki　sïsï　sïsïna]

ム˚ーナーキシー[m:na:kiʃi:]〈名詞〉中途半端なやりよう。〈彼はいつも仕事は中途半端にしている〉「カリャー　イツマイ　スグトゥーバー　ム˚ーナーキシードゥ　スス」[kaɾja:　itsïmai　sïgutu:ba:　m:n:kiʃi:du　sïsï]

ム˚ーナーキ　カーラキ[m:na:ki　ka:ɾaki]〈名詞〉半分乾き。中途半端な乾き。生乾き。〈陽射しが弱いので洗濯物は生渇きになっている〉「ピャーイ˚ヌ　ヨーカイバドゥ　アロームノー　ム˚ーナーキ　カーラキン　ナリュー」[pja:ïnu　jo:kaibadu　aɾo:muno:　m:na:ki　kaɾa:kin　naɾju:]

ム˚ーナーキガ　ダイ[m:na:kiga　dai]〈名詞〉半分の値段。〈これは買った半分の値段です〉「クリャー　コータームヌヌ　ム˚ーナキガ　ダイ」[kuɾja:　ko:ta:munun　m:na:kiga　dai]

ム˚ーナキ　スグトゥ[m:na:ki　sïgutu]〈連語〉中途半端な仕事。手抜き仕事。〈彼に仕事を頼むと手抜き仕事になる〉「カインカイ　スグトゥー　タヌム˚ツカー　ム˚ーナーキスグトゥンドゥ　ナイ˚」[kaiŋkai　sïgutu:　tanumtsïka:　m:na:kisïgutundu　naï]

ム˚ーナーキ　スス[m:na:ki　sïsï]〈連語〉中途半端にする。手抜きでする。〈中途半端にする人には頼むな〉「ム˚ーナキ　スス　プストゥンカイヤ　タヌム˚ナ」[m:na:ki　sïsï　pïtuŋkaija　tanumna]

ム˚ーナーキナー[m:na:kina:]〈名詞〉半分ずつ。〈少ないから半分ずつに分けて食べなさい〉「イキャラカイバ　ム˚ーナーキナー　バキーファイ」[ikjaɾakaiba　m:na:kina:　baki:fai]

ム˚ーナーキ　ノーイ˚[m:na:ki　no:ï]〈名詞〉物事が半分だけ回復する。〈彼は退院したが半分回復しただけだそうだ〉「カリャー　タイインナシー　キシュースゥガドゥ　ム˚ーナーキノーイ˚ッツァー」[kaɾja:　tainnaʃi:　kiʃu:sugadu　m:na:ki　no:ïtstsa]

ム˚ーナーキ　バキ[m:na:ki　baki]〈名詞〉半分分配する。〈配る人数が多いので半分分配をします〉「ナカーイ˚　プストゥヌ　ム˚チューイバ　ム˚ーナーキ　バキ　スゥーディ」[naka:ï　pïtunu　mtʃu:iba　m:na:ki　baki　su:di]

ム˚ーナーキ　フォー[m:na:kifo:]〈名詞〉半分食べ。十分に食べられなかった状態。〈昼飯は急いでいたので半分食べだった〉「アシャー　アワテュー　タイバドゥ　ム˚ーナーキ　フォー

ヤター」[aʃa:　awatju:　taibadu　m:na:ki fo:　jata:]

ム˚ーナーキムヌ[m:na:kimunu]〈名詞〉半分なもの。中途半端なもの。<持ってきた物を調べるとみんな中途半端なものだ>「ムチクゝスター　ムヌー　ミーツカー　ム˚ーナ　ム˚ーナーキムヌサイガ」[mutʃikïsïta:　munu:　mi:tsïka:　m:na　mu:nakimunusaiga]

ム˚ーナグー[m:nagu:]〈名詞〉砂。<コンクリと造りの家には砂を使う>「クンクリヤー　ツゥフゥンナ　ム˚ーナグーヌドゥ　ツコーサイ」[kuŋkurija:　tsufunna　m:nagu:judu tsïko:sai]

ム˚ーナグー　アスプゝ[m:nagu:　asïpï]〈名詞〉砂遊び。<子どもたちは砂遊びが大好きです>「ヤラビヌキャー　ム˚ーナグーアスプゝヌドゥ　ドゥクヌ　プカラスムヌ」[jarabinukja:　m:nagu:　asïpïnudu　dukunu pukarasïmunu]

ム˚ーナグー　クス[m:nagu:　kusï]〈名詞〉砂運搬。砂運び。<家づくりで砂運びは辛い作業だよ>「ヤーフゥクゝンナ　ム˚ーナグー　クスッサ゜　コースグドゥサイ」[ja:fukïnna m:nagu:　kusïzza　ko:sïgutusai]

ム˚ーナグー　ズー[m:nagu:　dzï:]〈名詞〉砂地。<以前は砂地には西瓜は植えていた>「マイナギンナ　ム˚ーナグー　ズーンドゥ　スーコーバー　イビューター」[mainaginna m:nagu:　dzï:ndu　sï:ko:ba:　ibju:ta:]

ム˚ーナグーパマ[m:bagu:pama]〈名詞〉砂浜。<宮古島の海岸の砂浜では与那覇前浜が最も素晴らしい>「ミャークヌ　ム˚ーナグーパマー　ユナパマイパマヌドゥ　ジャーンズミサイ」[mja:kunu　m:nagu:pama: junapamaibamadudu　dʒa:n　dzïmisai]

ム˚ーナグーパリ[m:nagu:pari]〈名詞〉砂地畑。<海岸べりには砂地畑が多い>「イム˚バタンナ　ム˚ーナグー　パリヌドゥ　ム˚チューサイ」[imbatanna　m:nagu:　parinudu　mtʃu:sai]

ム˚ーナグー　ンタプゝ[m:nagu:　ntabï]〈名詞〉砂いじり。砂遊び。<砂は入れ物でどんな形にもなるので子どもは砂いじりが好きです>「ム˚ーナグーヤ　イ˚ッシ˚ムヌン　ユリードゥノーシヌ　カターム˚マイ　ナリバドゥ　ヤラビヌキャー　ム˚ーナグー　ンタブゝヌ　ゾーカーサイ」[m:nagu:ja　ïʒʒimunuɲuri:du no:ʃinu　katammai　naribadu　jarabinukja: m:nagu:　ntabïnu　dzo:ka:sai]

ム˚ーナグー　ム˚ツ[m:nagu:　mtsï]〈名詞〉砂道。<海岸べりには砂道が多い>「イム˚バタンナ　ム˚ーナグー　ム˚ツヌドゥ　ム˚チュー」[imbatanna　m:nagu:　m tsïnudu　mtʃu:]

ム˚ーナシー[m:naʃi:]〈名詞〉みんなで。全員で。全部で。総合して。<彼の仕事を皆で手伝う>「カイガ　スグトゥー　ム˚ーナシー　カシー　スス」[kaiga　sïgutu:　m:naʃi:　kaʃi:　sïsï]

ム˚ーナジン[m:nadʒin]〈名詞〉無駄金。〈伊良部方言〉

ム˚ーナパタラクゝ[m:napatarakï]〈名詞〉無駄働き。〈伊良部方言〉

ム˚ーナムヌ　フォー[m:namunu　fo:]〈名詞〉働かず飯食いにだけ来る。只飯食い。<彼はいつも只飯食いに来るよ>「カリャー　イツママイム˚ーナムヌフォーガドゥ　クゝスサイ」[karja:　itsïmai　m:namunu　fo:gadu kïsïsai]

ム˚ーニー[m:ni:]〈名詞〉芋煮。<芋煮は早朝の母親の仕事だった>「ム˚ーニーヤ　ストゥムティシャーカカラヌ　アンナガ　スグトゥドゥヤター」[m:ni:ja　sïtumutu　ʃa:kakaranu annaga　sïgutudu　jata:]

ム˚ーニーズル[m:ni:dzïru]〈名詞〉芋の煮汁。<芋の煮汁を溢すのは大変な仕事だった>「ム˚ーヌ　ニーズルー　スタム˚マ　ウースグトゥ

ドゥ　ヤター」[m:nu　ni:dzïru:　sïtamma u:sïgutudu　jata:]

ム˚ーニーナビ[m:ni:nabi]〈名詞〉芋を煮る大鍋。〈芋を煮る鍋を洗うのは大変な仕事だった〉「ム˚ーニーナビュー　アローヤ　ウプナビヤバ　ウースグトゥドゥ　ヤター」[m:ni:nabju:　aɾo:ja　upunabijaba　u:sïgutudu　jata:]

ム˚ーヌ[m::nu]〈名詞〉蓑。みの。棕櫚のひげや藁の茎葉で作った昔の雨具。〈昔は雨が降ったら蓑を付けて仕事をした〉「ンキャーンナ　アミヌ　フゥイ˚ツカー　ム˚ーヌ　キシードゥ　スグトゥーバー　ススター」[ŋkja:nna　aminu　fuïtsïka:　m:nu　kiʃi:du　sïgutu:ba:　sïsïta:]

ム˚ーヌ　シギ[m:nu　ʃigi]〈名詞〉か細い芋。小さな芋。くず芋。〈以前はくず芋でも大切な食糧だった〉「ンキャーンナ　ム˚ーヌシギマイ　アタラカ　フォームヌドゥ　ヤター」[ŋkja:nna　m:nu　ʃigimai　ataɾaka　fo:munudu　jata:]

ム˚ーヌ　スス[m:nu　sïsï]〈名詞〉芋の煮汁。〈芋の煮汁を溢す〉「ム˚ーヌ　ニーススッス˚ゥスタム˚」[m:nu　ni:　sïsïzzu　sïtam]

ム˚ーヌイ˚[m:nuï]〈名詞〉芋おにぎり。芋団子。〈子どものころは芋おにぎりもよく食べた〉「ヤラビパダー　ム˚ーヌイ˚ッス˚ゥマイ　ユードゥ　フォーター」[jaɾabipada:　m:nuïzzumai　ju:du　fo:ta:]

ム˚ーヌイ˚ギー[m:nuïgi:]〈名詞〉植物。フクマンギ。(ムラサキ科)。実は食べたが美味しくはない。

ム˚ーヌ　カー[m:nu　ka:]〈名詞〉芋の皮。〈芋の皮は家畜の餌にした〉「ム˚ーヌ　カーユバ　イクスムスヌ　フォームヌンドゥ　ススター」[m:nu　ka:juba:　ikïmusïnu　fo:munundu　sïsïta:]

ム˚マフファニャーン[mmaffaɲa:n]〈連語〉美味しくない。〈僕は苦瓜は美味しくない〉「バヤーゴーラー　ムマフファニャーン」[baja:　go:ɾa:　mmaffaɲa:ŋ]

ム˚マフファニャーンギ　ムヌフフォー[mmaffaɲa:ŋgi　munufo:]〈連語〉美味しくなさそうな食べ方。〈他人の家では美味しくないそうな食事の仕方はするな〉「ピトゥヌ　ヤーンナ　ム˚マフファニャーンギ　ムヌフフォーユバー　ススナ」[pïtunu　ja:nna　mmaffaɲa:ŋgi　mumufo:juba:　sïsïna]

ム˚マムヌ[mmamunu]〈名詞〉美味しいもの。〈美味しい物を食べさせてもらうと誰でも嬉しい〉「ム˚マムヌー　フィーライツカー　トーマイ　プカラスムヌ」[mmamunu:　fi:ɾaitsïka:　to:mai　pukaɾasïmunu]

ム˚マムヌチャーカ[mmamunutʃa:ka]〈名詞〉美味しい物だけ。〈死ぬまで美味してものだけを食べて生きたい〉「スンキャー　ム˚マムヌチャーカ　ファイー　イクスディ　プスーヌ」[sïŋkja:　mmamunu:tʃa:ka　fai:　ikïdi　busï:nu]

ム˚マムヌバーキ[mmamunuba:ki]〈名詞〉美味しい物ばかり。〈今日は美味しいものばかり食べて満足です〉「キューヤ　ム˚マムヌバーキ　フォータイバドゥ　クスムプキューサイ」[kju:ja　mmamunuba:ki　fo:taibadu　kïmu　pugju:]

ム˚マムヌ　ファイヤ[mmamunu　faija]〈名詞〉美食家。美味しい物だけ食べる人。〈最近は美食家が仕事になる〉「ンナマナギャー　ム˚マムヌフファイヤヌドゥ　スグトゥン　ナイ˚」[nnamanagja:　mmamunu　ffaijanudu　sïgutun　naï]

ム˚マヤー[mmaja:]〈名詞〉母親の実家。実家。生家。〈今日は母の実家に遊びに行く〉「キューヤ　ム˚マヤーンカイドゥ　アスプスガ　イクスガマタ」[kju:ja　mmaja:ŋkaidu　asïpïga　ikïgamata]

ムᵒマームᵒマ[mma:mma]〈形容詞〉最高に美味しい。〈君のあげた砂糖てんぷらは最高に美味しいね〉「ヴヴァガ　ツゥフゥターサタパンビンナ　アティヌ　ムᵒマームᵒマサイガ」[vvaga　ɾsufuta:　satapambinna atinu　mmamunusaiga]

ムᵒマムイᵒ　フファ[mmamuï　ffa]〈名詞〉母親から離れない子ども。母親に懐き過ぎの子ども。〈母親に懐き過ぎの子どもは手がかかる〉「ムᵒマムイᵒ　フファー　ティーヌドゥ　カカイᵒ」[mmamuï　ffa:　ti:nudu　kakaï]

ムᵒマヤー[mmaja:]〈名詞〉母の実家。〈旧暦の十六日には母の実家に行く〉「ジュールクニツンナ　ムᵒマヤーンカイ　イクᵻガマタ」[dʒu:ɾukunitaïnna　mmaja:ŋkai　ikïgamata]

ムᵒマラス[mmaɾasï]〈動詞〉

①生ませる。〈難産だったがやつとかっとで産ませた〉「ナスカニ　ススタースゥガドゥヤットゥカットゥシー　ムᵒマラスター」[nasïkani　sïsïta:sugadu　jattukattuʃi:　mmaɾasïta:　]

②成就させる。輩出する。〈やっとこの集落からも医者を輩出した〉「ヤットゥドゥ　クヌ　ブラクカラマイ　イショー　ムᵒマラスター」[jattudu　kunu　buɾakukaɾamai　iʃo:　mmaɾasïta:]

ムᵒマリ[mmaɾi]〈動詞〉

①生まれる。〈男の子が生まれる〉「ビキフファヌ　ムᵒマリ」[bikivvanudu　mmaɾi　]

②出来た。〈新しい公民館が出来た〉「ミイᵒーヌブムᵒミャーヌドゥ　ムᵒマリター」[miï:nu bummja:nudu　mmaɾita:]

ムᵒマリカーイᵒ[mmaɾika:ï]〈名詞〉生まれ変わる。〈生まれ変わるのなら次は鳥になりたい〉「ムᵒマリカーイᵒツカー　ツギャー　トゥイᵒンカイドゥ　ナイᵒブスーヌ」[mmaɾika:ïtsïka:　tsïgja:　tuïŋkaidu　naïbusï:nu]

ムᵒマリガツナヌ[mmaɾiga　tsïnanu]〈連語〉生まれつきの。〈彼の頑固さは生まれつきで治らない〉「カイガ　ガーズゥーヤ　ムᵒマリガツナヌ　ムヌヤバ　ノーラン」[kaiga　ga:dzu:ja mmaɾigatsïnanu　munujaba　no:ɾan]

ムᵒマリカニ[mmaɾikani]〈形容詞〉生まれ兼ねて。難産。〈僕の長男はお産の時難産で心配した〉「バガ　チャクシャー　ナストゥキャーンムᵒマリカニ　ススタイバドゥ　シュワ　ススター」[baga　tʃakuʃa:　mmaɾitukja:n mmaɾikani　sïsïtaibadu　ʃiwa　sïsïta:]

ムᵒマリカラズ[mmaɾikaɾadzï]〈名詞〉産毛。赤児の髪。〈うぶ毛が細くて柔らかい毛だから触ると気持ち良い〉「ムᵒマリカラズヌ　イミーッチャシヌ　ヤパカラズヤバドゥ　カガローズミサイ」[mmaɾikaɾadzïnu　imi:tʃtʃaʃinu japa]

ムᵒマリショー[mmaɾiʃo:]〈名詞〉生まれつき持ってる性分。〈彼の心配性は生まれつきだ〉「カイガ　シュワズゥーサー　ムᵒマリショーサイ」[kaiga　ʃiwadzu:sa:　mmatiʃo:sai]

ムᵒマリズマ[mmaɾidzïma]〈名詞〉生まれた集落。故郷。〈僕の故郷は宮古島です〉「バガ　ムᵒマリズマー　ミャーク」[baga　mmaɾidzïma:　mja:ku]

ムᵒマリヌ　ゾーカイバ[mmaɾinu　dzo:kaiba]〈名詞〉育ちが良いから。〈彼は育ちが良いから食事マナーもよい〉「カリャー　ムᵒマリヌゾーカイバドゥ　ムヌフォーマイ　カギカー」[kaɾja:　mmaɾinu　dzo:kaibadu　munufo:mai kagimunu]

ムᵒマリツクᵻ[mmaɾitsïkï]〈名詞〉生まれた月。〈私の生まれ月は三月です〉「バガ　ムᵒマリツクᵻッサᵒ　サンガツサイ」[baga mmaɾitsïkïzza　sangatsïsai]

ムᵒマリツクᵻ[mmaɾitsïkï]〈名詞〉生まれつき。天性。性分。先天的。根っから。〈私は生まれつ

きおっちょこちょいなんだよ〉「バヤー　ムᵒマリツクス　カカミキャガマユー」[baja:　mmaɾitsïkï　kakamikjagamaju:]

ムᵒマリツクス[mmaɾitsïkï]〈名詞〉生まれた月。誕生月。〈先月は子どもの誕生月だった〉「マイヌ　ツクスッサᵒ　フファヌ　ムᵒマリツクスドゥ　ヤター」[mainu　tsïkïzza　ffanu　mmaɾitsïkïdu　jata:]

ムᵒマリデャーンス　ムᵒマリ[mmaɾidja:nsï　mmaɾi]〈名詞〉生まれ甲斐もなく生まれる。謂れを持って生まれる。生まれべくなくして生まれる。〈生まれ甲斐もなく生れる命はない〉「ムᵒマリデャーンス　ムᵒマリティヌ　ンヌッツァニャーン」[mmaɾidja:nsï　mmaɾinu　nnutstsa　ɲa:ŋ]

ムᵒマリトーン　アミシミ　ユー[mamaɾito:nʃi:　amiʃimi　ju:]〈名詞〉産湯。生まれてすぐ浴びせる湯。

ムᵒマリトーン　アラパズミ　クススクスン[maɾito:n　aɾapadzïmi　kiʃikïn]〈名詞〉産着。生まれてすぐ着せる服。

ムᵒマリトーンカラ　ウイユー　キー[maɾitonkaɾa　uiju:　ki:]〈名詞〉産毛。生まれた時に生えている毛。

ムᵒマリトゥキャーン　ナクスクイ[mmaɾitukja:n　nakïkui]〈名詞〉産声。生まれたる時に泣く声。

ムᵒマリーカラドゥ[mmaɾi:kaɾadu]〈連語〉生まれてからぞ。〈子どもは生まれてからこそ後が大切だよ〉「フファー　ムᵒマリーカラヌ　アトゥカラドゥ　ダイズダラ」[ffa:　mmaɾi:kaɾanu　atukaɾadu　daidzïdaɾa]

ムᵒマリナツキ[mmaɾinatsïki]〈名詞〉生まれつき。生まれながら。〈彼は生まれつき優しいです〉「カリャー　ムᵒマリナサキ　クスムカギムヌサイ」[kaɾja:　mmaɾinatsïki　kïmukagimunusai]

ムᵒマリナギナヌ　ウヤキ[mmaɾinagina　ujaki]〈名詞〉生まれつき裕福。〈彼は生まれつき裕福だ〉「カリャー　ムᵒマリナギナヌ　ウヤキダラ」[kaɾja:　mmaɾinagina　ujakidaɾa]

ムᵒマリナツキ　カーギ[mmaɾinatsïki　ka:gi]〈名詞〉生まれつき容姿。〈生れつきの容姿は美しい〉「ムᵒマリナギナヌ　カーキヤ　ゾーカーギ」[mmaɾinaginanu　ka:gija　dzo:ka:gi]

ムᵒマリヌ　ゾーカイバ[mmaɾinu　dzo:kaiba]〈名詞〉育ちが良いから。〈彼は育ちが良いから食事マナーもよい〉「カリャー　ムᵒマリヌゾーカイバドゥ　ムヌフォーマイ　カギカー」[kaɾja:　mmaɾinu　dzo:kaibadu　munufo:mai　kagimunu]

ムᵒマリバン[mmaɾiban]〈名詞〉幼児班。蒙古斑。乳幼児の尻などにみられる黒い班。〈赤子には生まれた時に尻に黒い斑があるんだよ〉「アカンガンナ　ムᵒマリトゥキャーンドゥ　チビタイᵒン　ムᵒマリバンヌ　アーダラ」[akaŋganna　mmaɾitukja:ndu　tʃibitaïn　mmaɾibannu　a:daɾa]

ムᵒマリハンジョー[mmaɾihandʒo:]〈名詞〉子孫繁栄。子宝繁盛。〈子孫繁栄は家族全員の希望だ〉「ムᵒマリハンジョーヤ　ヤーデャー　ムᵒーナガ　ヌズゥムᵒクトゥサイ」[mmaɾihandʒo:ja　ja:dja:　m:naga　nudzumkutusai]

ムᵒマリプスカズ[mmaɾip　ïkadzï]〈名詞〉生まれた日。誕生日。〈年取ると誕生日も忘れる〉「トゥススゥ　トゥイᵒツカー　ムᵒマリプスカズマイドゥ　バシドゥス」[tusïsu　tuïtsïka:　mmaɾipïkatstsumai　baʃidusï]

ムᵒマリビキダチャ[mmaɾibikidatʃa]〈名詞〉一生結婚しない男性。生涯独身男。〈私の伯父は一生独身でした〉「バガ　ウプヤー　ムᵒマリビキダチャドゥ　ヤター」[baga　upuja:　mmaɾibikidatsadu　jata:]

ムᵒマリミーダシャ[mmaɾimi:datʃa]〈名詞〉一生結婚しない女性。生涯独身女性。〈最近は結婚しない女性が多いとの事だが彼らは皆生涯独身

女性になるのだろうか〉「ンナマナギャー　ササギュー　スゥーン　ミドゥム˚ヌドゥ　ム˚チューティヌ　クトゥヤスゥガ　カイター　ム˚ーナ　ム˚マリミーダチャンドゥ　ナイ˚ガマタビャー」[nnamanagja:　sasagju:　su:n　midumnukja:nudu　mtʃu:tinu　kutujasuga　kaita:　m:na　mmaɾimi:datsandu　naïgamatabja:]

ム˚マリヤヴ[mmaɾijav]〈名詞〉出産時の事故。出産時の障害。〈出産時の障害によって障害児は生まれることがある〉「ム˚マリヤヴヴァ　ドゥーヤヴヴィフファヌ　ム˚マリクトゥヌ　アー」[mmaɾijavva　du:javv　ffanu　mmaɾikutunudu　a:]

ム˚マリンキャー[mmaɾiŋkja:]〈名詞〉生まれない内に。生まれない前に。〈赤ちゃんが生まれない前に準備すべきものは準備する〉「アカンガヌ　ム˚マリンキャードゥ　スコーイ˚ガマタヌ　ムヌーバース　コーリ」[akaŋganu　mmaɾiŋkja:du　sïko:ïgamatanu　munu:ba:　sïko:ɾi]

ム˚マワー[mmawa:]〈名詞〉母豚。出産した親豚。〈母豚は多くの子豚を産む〉「ム˚マワーヤ　ヨーダキヌ　フフォードゥ　ナス」[mmawa:ja　jo:dakinu　ffo:du　nasï]

ム˚マン[mman]〈動詞〉熟しない。〈桃が熟しない〉「ムム˚ヌドゥ　ム˚マン」[mumnudu　mmaŋ]

ム˚マン　パッジ[mman　padʒdʒi]〈名詞〉母に死に別れ。母に逸れて。〈戦後は母に死に別れた子どもたちが多かった〉「イヴサアトゥンナ　ム˚マン　パッジ　フファヌキャーヌドゥ　ヨーダキ　ウーター」[ivsaatunna　mman　padʒdʒi　ffanukja:nudu　jo:daki　u:ta:]

ム˚ミ[mmi]〈名詞〉頂。嶺。〈山の頂上に雲がかかっている〉「ヤマヌ　ム˚ミンドゥ　フゥム˚ヌ　カカリュー」[jamanu　mmindu　fumnu　kakaɾju:]

ム˚ミ[mmi]〈名詞〉胸。〈胸がときめいている〉「ム˚ミヌドゥ　プトゥミキュー」[mminudu　putumikju:]

ム˚ミー[mmi:]〈動詞〉熟して。果実が熟する。〈庭の九年母が熟しているので採って食べた〉「ミナカヌ　フゥニイ˚ヌ　ム˚ミー　ウータイバドゥ　トゥイ　フォーター」[minakanu　funiïnu　mmi:　u:taibadu　tui　fo:ta:]

ム˚ミー[mmi:]〈動詞〉濡れて。〈雨に濡れて帰ってきた〉「アミン　ム˚ミードゥ　ヤーンカイ　クスター」[amin　mmi:du　ja:ŋkai　ikïta:]

ム˚ミヴツ[mmivtsï]〈名詞〉みぞおち。鳩尾。〈みぞおちが突かれると息が止まる〉「ム˚ミヴツヌ　ダミライツカー　イクスヌドゥ　トゥマイ˚」[mmivtsïnu　damiɾaitsïka:　ikïnudu　tumaï]

ム˚ミヴツガミ[mmivtsïgami]〈連語〉鳩尾で。〈走りすぎて鳩尾まで痛くなってきた〉「アティトゥバシードゥ　ム˚ミヴツガミ　ヤム˚フゥナリュー」[ati　tubaʃi:du　mmivtsïgami　jamfu　naɾju:]

ム˚ミクズ[mmikudzï]〈名詞〉喉詰まり。〈芋を食べると喉詰まりがする〉「ム˚ーム　フォーツカー　ム˚ミクズフゥトゥ　ナイ˚」[m:mu　fo:tsïka:　mmikudzïfudu　naï]

ム˚ミダティ[mmidati]〈屋号〉野原集落。申組。平良カナ家屋号。

ム˚ミダティ[mmidati]〈屋号〉野原集落。申組。平良メガ家屋号。

ム˚ミツズ[mmitsïdzï]〈名詞〉峰の天辺。峰の頂上。〈峰の天辺には月がかかっている〉「ム˚ミツズンナ　ツクスゥヌドゥ　カカリュー」[mmitsïdzïnna　tsïkïsunudu　kakaɾju:]

ム˚ミドゥンドゥン[mmidundun]〈擬態語〉胸の高鳴り。胸がどんどんする。胸のときめき。〈とてもびっくりして胸がどんどんする〉「アティ　ウドゥルキードゥ　ム˚ミドゥンドゥンティー　ウー」[ati　uduɾuki:du　mmidundunti:　u:]

ム˚ミナーギ[mmima:gi]〈名詞〉峰伝いに。<嶺伝いに歩いて行く>「ム˚ミナーギ　アイ˚キーイクス」[mminagi　aïki:　ikï]

ム˚ミバタヤム[mmibatajam]〈名詞〉胃痛。胃痙攣。<悩みがあって胃が痛い>「クスムヤミードゥム˚ミバタヤム˚ヌ　ウクリュー」[kïmujami:du mmibajamnu　ukuɾju:]

ム˚ミプトゥプトゥ[mmiputuputu]〈擬態語〉胸ドキドキ。胸が震える。恐怖で震える。<幽霊がいると聞いて胸どきどきとしている>「マズムヌヌドゥ　ウーティー　クスキッティドゥ　ム˚ミプトゥプトゥティー　ウー」[madzïmununudu u:ti:　kïkittidu　mmiputupututi:　u:]

ム˚ミャイ˚[mmja ï]〈動詞〉お出でになる来なさる。御出でになる。<お婆さんは私の家にお出でになる>「ム˚マー　バンタガ　ヤーンドゥム˚ミャイ˚」[mma:　ja:ndu　mmjaï]

ム˚ミャチ[mmatʃi]〈動詞〉いらっしゃい。<お祖母ちゃんこちらにいらっしゃい>「ム˚マー　クマンカイ　ム˚ミャチ」[mma:　kumaŋkai mmjatʃi]

ム˚ミュー[mmju:]〈動詞〉紡いだ糸。<紡いだ糸は片づけた>「ム˚ミューバー　ンナスドゥスター」[mmju:ba:　nnasïdusïta:]

ム˚ムーシャ[mmuʃa]〈名詞〉貝類。たから貝。〈伊良部方言〉

ム˚ムクズ[mmukudzï]〈名詞〉芋屑。芋澱粉。<芋くずは蒸して団子にします>「ム˚ムクッズゥバー　ムブシー　ム˚ーヌイ˚ン　スゥーディ」[mmukudzdzuba:　mbuʃi:　m:nuïn　su:di]

ム˚メーガム˚メー[mme:gamme:]〈擬声語〉山羊の鳴き声。<山羊がめえーめえーと鳴いている>「ピンザヌドゥ　メーメーティー　ナキュー」[pindzanudu　mme:gamme:ti　nakju:]

ム˚モーイ[mmo:i]〈感動詞〉ごめん下さい!。<ごめん下さい!。いらっしゃいますか>「ム˚モーイウラマイ˚ドスナー」[mmo:i!　uɾamaïdusïna:]

ム˚モーガム˚モー[mmo:gammo:]〈擬声語〉モーモー。牛の鳴き声。<牛がモーモーと鳴いているので草を上げなさい>「ウスヌ　ム˚モーガム˚モーティー　ナキューイバ　フゥソー　アズキル」[usïnu　mmo:gammo:ti:　nakju:iba fusa:　adzïkiɾu]

「ン」[n]

ンーンー[n:n:]〈感動詞〉はいはい。了解の返事。<はいはい!君の言う事は了解した>「ヴヴァガアイ˚ムヌーバー　ンーンー」[vvaga aïmunu:ba:　n:n:]

ンーガナ[n:gana]〈感動詞〉はい。了解。解った。了解した時の返事。<はい!一緒に行くよ>「ンーガナ　マーツキ　イカディ」[n:gana ma:tsïki　ikadi]

ンーダカリー[ŋ:dakaɾi]〈連語〉似たように。そっくり。よく似ている。<彼は父親とそっくりだ>「カリャー　アサム˚マトゥドゥ　ンーダカリーウー」[kaɾja:　asammatudu　n:Dakaɾi:　u:]

ンーカイバ[ŋ:kaiba]〈連語〉似ているので。<あの二人はよく似ているので双子だはず>「カヌフゥターイ˚ッサ˚ユー　ンーカイバ　フゥタガパズ」[kanu　futa:ïzza　ju:　n:kaiba futagapadzï]

ンーカイ˚[ŋ:kaï]〈名詞〉似ている。<君たちは似ている兄弟だね>「ヴヴァーター　ンーカイ˚キョーダイサイガ」[vvata:　n:kaï kjo:daisaiga]

ンーカイ˚ニャーン[ŋ:kaïɲa:n]〈連語〉似たように。<二つの仕事は似たようにやってくれ>「フゥーターツヌ　スグトゥーバー　ンーカイ˚ニャーン　ッシフィール」[futa:tsïnu sïgutu:ba:　n:kaïɲa:n　ʃʃifi:ɾu]

ンーガナ[n:gana]〈名詞〉了解。わかった。はい。承諾の返事。<君に頼まれたことは了解した。や

るよ〉「ヴヴァン　タヌマイター　クトゥバー　ンーガナ　スゥーディ」[vvan　tanumaita:　kutu:ba:　n:gana　su:di]

ンーガナティー[n:ganati:]〈連語〉素直に。〈彼は素直に私の話を聞く〉「カリャー　ンーガナティドゥ　バガ　パナスッス゚ゥ　クスクス」[kaɾja:　n:ganatidu　baga　panasïzzu　kïkï]

ンーカリー[ŋ:kati:]〈名詞〉似ている。〈それらは似ているので親子と分かる〉「ウイター　ンーカリーバ　ウヤフファティー　スサイドゥス」[uita:　n:kaɾi:　uiba　ujaffati:　sïsaidusï]

ンーギサ[ŋ:sagi]〈名詞〉よく似ている。〈君たち兄弟はみんな似ている〉「ヴヴァタガ　ビキリャー　ム゚ーナ　ンーギサ」[vvata:　bikiɾja:　m:na　ŋ:gisa]

ンーギターリ[ŋ:gita:ɾi]〈名詞〉なんでもはいはいと聞き入れる人。〈君は人の言うことを何でも聞くので損するぞ〉「ヴヴァー　ンギターリカイバ　スゥン　ススム゚ドー」[vva:　ŋ:gita:ɾikaibadu　sun　sïsï]

ンーギナリー[ŋ:ginaɾi:]〈名詞〉承知したような。了解したような。〈彼は頼んだ事は承知したような顔をしていた〉「カリャー　タヌンタークトゥーバー　ンーギナリードゥ　ウーター」[kaɾja:　tanunta:　kutu:ba:　n:gi　naɾi:du　u:ta:]

ンーギ[ŋ:gi]〈名詞〉似たような。〈二人は似たような顔だ〉「フゥターイ゚ッサ゚ンーギ　ミパナサイガ」[]

ンーギ　ウイビマイ　ユヌ　タキャー　ニャーン[ŋ:gi　uibimai　junu　takja:　ɲa:n]〈ことわざ〉〈同じ五本の指でも同じ高さのものはない〉「同じ親から生まれた兄弟でもそれそれ性格や考え味方も違うものだ。五本の指と同じでそれぞれに特性があり個性がある」

ンーギターリムヌ[n:gita:ɾimunu]〈名詞〉優柔不断な奴。〈彼は他人の言うことに惑わされる優柔不断な奴だ〉「カリャー　プストゥヌ　アンズムヌイ゚ンドゥマヴヴァイサイーヌ　ンギターリムヌサイ」[kaɾja:　bïtunu　andzïmunuïn　dumavvaisainu　ŋ:gita:ɾimunu]

ンーギフファニャーン[ŋ:giffaɲa:n]〈連語〉似てはいない。〈彼らは兄弟でも二人は似ていない〉「カイター　キョーダイヤラーマイ　フゥターイ゚ッサ゚　ンーギフファニャーン」[kaita:　kjo:daijaɾa:mai　futa:ïzza　ŋ:giffaɲa:ŋ]

ンーギ　プストゥ[ŋ:gi　pïtu]〈名詞〉似たような人。〈君と似たような人が来ていた〉「ヴヴァトゥ　ンーギ　プストゥヌドゥ　キシューター」[vvatu　ŋ:gi　pïtunudu　kiʃu:ta:]

ンーサ[ŋ:sa]〈名詞〉同じ．同等。似ている。〈似たもの同士いっしょに行け〉「ンーサムヌ　ザラーカ　マーツキ　ピリ」[n:samunu　dzaɾa:ka　ma:tsïki　piɾi]

ンーサヌ[n:sanu]〈形容詞〉似ている。〈君たち二人はよく似ている。誰が誰だかわからない〉「ヴヴァタ　フゥターイ゚　アティ　ンーサヌ　トーガトーガラ　スサイン」[vvata:　futa:ïati　n:sanu　to:gato:gaɾa　sïsaiŋ]

ンーサフゥササ[ŋ:safusasa]〈名詞〉似たもの同士。似たり寄ったり。「ンーサブーサ」[n:sabu:sa]とも言う。〈君たち二人がやることは似たり寄ったりだよ〉「ヴヴァタ　フゥターイ゚ガ　ススクトーンーサフゥササ　サイガ」[vvata　fa:ïga　sïsïkuto:　n:safusasa　saiga]

ンーサムヌ[ŋ:samunu]〈名詞〉同じような者。似た物。〈君たちは似たものを買って来たね〉「ヴヴァーター　ンーサムヌードゥ　カイキシュークスサイガ」[vvata:　n:samunu:du　kaikiʃu:kïsaiga]

ンーサムヌ[ŋ:samunu]〈名詞〉似た者。〈似た者同士で遊びに行った〉「ンームヌ　ザカーカドゥ

アスプゥガ　イクゥター」[n:samunu dzara:kadu asïpïga ikïta:]

ンーシー[ŋ:ʃi:]〈連語〉似たように。そっくりな。同じように。<二人はそっくりなので区別ができない>「フゥターイ゜ッサ゜ンージー　ウイバドゥ　トーガラ　スサイン」[futa:ïzza n:ʃi:　uibadu　to:gara　sïsaiŋ]

ンーシヌ[ŋ:ʃinu]〈名詞〉そっくりな。似ている。同じような。<同じようなものを買ってきなさい>「ンーシヌ　ムヌー　カイクー」[n:ʃinu munu:　kaiku:]

ンーダカリー[n:Dakari:]〈連語〉似たように。同じように。<二人は似ているので間違われる>「フゥターイ゜ッサ゜ンーダカリー　ウイバドゥ　チガーイライ　ウー」[futa:ïzza n:Dakari:　uibadu　tʃiga:rai　u:]

ンーティー[n:ti:]〈連語〉はいと。<彼がそう言っているのにはいと聞いたらどうか>「カイガ　アンチー　アンジュームヌー　ム゜ーティ　クゥクゥチカー　ノーシーヤバ」[kaiga　antʃi:　andʒu:munu:　m:ti　kïkïtsïka:　no:ʃi:jaba]

ンーティマイ　グーティマイ　アイ゜ッサ゜ン[n:ti:mai　gu:ti:mai　aïzzain]〈連語〉うんともすんとも言わない。<彼は何を尋ねてもうんともすんとも言わない>「カリャー　ノーユサバキャーマイ　ンーティーマイ　グーティーマイ　アイ゜ッサ゜ン」[karja:　no:ju sabakja:mai　n:ti:mai　gu:ti:mai　aïzzaŋ]

ンーティヤ[ŋ:tija]〈連語〉はいとは。<そのことにハイとは言えない>「ウヌ　クトゥンカイヤンーティヤ　アイ゜ッサ゜イン」[unu kutuŋkaija　n:tija　aïzzaiŋ]

ンーフファニャーン[ŋ:ffaɲa:n]〈連語〉似ていない。<彼らは兄弟だけど似ていない>「カイターキョーダイ　ヤスゥガドゥ　ンーフファニャーン」[kaita:　kjo:dai　jasugadu n:ffaɲa:ŋ]

ンーナ[ŋ:na]〈名詞〉空っぽ。(旧城辺町方言)(伊良部方言)<今日は中身のないお汁を飲まされた>「キューヤ　ンーナズルードゥ　ヌマサイター」[kju:ja　n:nadzïru:du　numasaita:]

ンームヌヤー[n:munuja:]〈連語〉似ているね。<それらは親子似ているね>「ウイター　ウヤフファンームヌヤー」[uita:　ujaffa　n:munuja:]

～ンガ[ŋga]〈助詞〉～に。場所を表す疑問代名詞に「どこ」付く場合。◎<君はどこに置いたか>「ヴヴァー　ンザンガ　ウツクゥタイバ」[vva: ndzaŋga　utsïkïtaiba]◎<君の家はどこにあるか>「ヴヴァガ　ヤーヤ　ンザンガ　アリャー」[vvafa　ja:jandzŋga　arja:]

～ンガ[ŋga]〈助詞〉～なかったか。◎<どうして見なかったか>「ノーティガ　ミーッタンガ」[no:tiga　mi:ttaŋga]◎<どうして行かないか>「ノーティガ　イカンガ」[no:tiga ikattaŋga]

ンガーナラス[ŋga:narasï]〈動詞〉免れさ。せる。<彼は病弱だから仕事は免れさせる>「カリャービョーザヤバ　スグトゥーバー　ンガナーラス」[karja:bjodzajaba　sïgutu:ba: ŋga:narasï]

ンガーラス[ŋga:rasï]〈動詞〉放免する。<彼の仕事を暫く放免する>「カイガ　スグトー　アターマガマ　ンガーナス」[kaiga　sïgutu: ata:magama　ŋga:rasï]

ンガーンガー[ŋga:ŋga]〈擬声語〉幼児の鳴き声。<赤ちゃんが泣いている>「アカンガヌドゥ　ンガーンガーティー　ナキュー」[akaŋganudu ŋga:ŋga:ti:　nakju:]

～ンカイ[ŋkai]<格助詞〉～に。～へ。体言及び体言に準ずる語に付く。主体が移動する場合。「へ」、「に」の「ンカイ」[ŋkai]になる。①用言の到達する場所。◎<学校に行く>「ガッコーンカイ　イクゥ」[kakko: ŋkai　ikï]◎<家に帰る>「ヤーンカイ　プゥイ゜」[ja:ŋkai　pïï]

②用言の相手を示す。◎<友達に聞いた>「ドゥスンカイドゥ　クスクスター」[dusïŋkaidu kïkïta:]◎<犬が子どもに吠えている>「インヌドゥ　ヤラビカラ　エソー　ムロー」[innudu jaɾabiŋkai buiju:]

③用言の比較の基準。◎<親に似ている>「ウヤンカイドゥ　ンーダカリー　ウー」[ujaŋkaidu n:Dakaɾi:　u:]◎<一つに二つを足す>「プスティーツンカイ　フゥターッツゥ　タラース」[pïti: tsïŋkai futa:tstsu taɾa:sï]

④用言の状態を起こす原因。◎<家が火事になる>「ヤーヤキンカイドゥ　ナイ゜」[ja:jakiŋkaidu naï]◎<台風に家を壊れた>「カジフゥクスンカイドゥ　ヤーユ　トーサイター」[kadʒifukïŋkaidu ja:ju to:saita:]◎<風貌に惚れる>「カーギンカイ　プリ」[ka:giŋkai puɾi]

～ンカイ[ŋkai]〈助詞〉～と。◎<僕も人の親となる>「バム゜マイ　プストゥヌ　ウヤンカイ　ナイ゜」[bammai pïtunu ujaŋkai naï]◎<花はやがて実となる>「パナー　ヤカティ　ナイ゜ンカイドゥ　ナイ゜」[pana:　jagati naïŋkaidu naï]◎<彼女は僕の嫁となる>「カヌ　ミドゥム゜マ　バガ　ユミンカイドゥ　ナイ゜」[kanu midumma baga jumiŋkaidu naï]

ンカイ[ŋkai]〈動詞〉迎える。<彼を迎える>「カリュー　ンカイ」[kaɾju:　ŋkai]

ンカイ[ŋkai]〈動詞〉向き合う。<向き合って話をする>「ンカイー　パナスッスゥ　スス」[ŋkai: panasïzzu sïsï]

ンガイ[ŋgai]〈名詞〉胆のう。<胆のうは気をつけなさいよ>「ンカイユバー　キーツキルヨー」[ŋgaijuba ki:　tsïkiɾujo:]

ンガイ[ŋgai]〈動詞〉抜かれて。<財布から金を抜かれた>「ジンフゥクルカラドゥ　ジンヌ　ンガイター」[dʒinfukuɾukaɾadu dʒinnu ŋgaita:]

～ンカイ[ŋkai]〈助詞〉～へ。

①移動性の動作、作用の向かって進む目的地点、方向を示す。◎<学校へ向かうバスが来た>「ガックーンカイ　ンコー　バスヌ　クスス」[gakku:ŋkai ŋko:　basïnu kïsï]◎<東に向かって日の出を拝む>「アガイ゜ンカイ　ンカイー　アガイ゜　ティドー　ウガム゜」[agaïŋkai ŋkai:　agaï tido:　ugam]

②移動性の動作、作用が帰着するところを示す。◎<目的地へたどり着く>「イクスガマタヌトゥクルンカイ　イキー　ツクス」[ikïgamatanu tukuɾuŋkai iki:　tsïkï]◎<川へ飛び込んで泳ぐ>「カーンカイ　ブドゥキー　ウーグス」[ka:ŋkai buduŋki:　u:gï]

③動作、作用の働き掛ける相手を示す。◎<別れる行く友に手を振る>「バカーリー　ピイ゜ドゥスンカイ　ティーユ　フゥイ゜」[baka:ɾi: piï dusïŋkai ti:ju fuï]◎<実家の母へ頼む>「ヤームトゥヌ　アンナンカイ　タヌム゜」[ja:mutunu annaŋkai tanum]◎<姉へ手紙を書く>「アンガンカイ　テガミュー　カクス」[aŋgaŋkai tigamju:　kakï]

④(「ところへ」の形で)事の起こった場面を、差し迫った意を含めて示す。◎<倒れた所へ車が来た>「トーリター　トゥクルンカイドゥクルマヌ　キスター」[to:ɾita: tukuɾuŋkaidu kuɾumanu kïsïta:]◎<風呂へはいたところに友達が来た>「ユーフゥルンカイ　パイ゜ター　トゥクルンカイドゥトゥスヌ　クスター」[ju:fuɾuŋkai païta: tukuɾuŋkaidu dusïnu kïsïta:]

～ンカイ[ŋkai]〈格助詞〉～に。

○共通語では格助詞「～に」が野原方言では「ンカイ」[ŋkai]になる用例。

①行きつく場所、到着場所。◎<とうとう宮古に着いた>「ンニャ　ミヤークンカイドゥ　ツキニャーン」[nɲa:　mja:kuŋkaidu tsïkiɲa:ŋ]

◎〈送った物は君の所に届く頃です〉「ウクイ゜タームノー　ヴヴァガ　マインカイ　ツクスパダサイ」[ukuïta:muno:　vvagamaiŋkai tsïkïpadasai]

②成り行く状態。変成する場合。◎〈明日は良い天気になる〉「アツァー　ゾーヴァツクスンカイドゥ　ナイ゜」[atsa:　dzo:va:tsïkïŋkaidu naï]◎〈これを方言に直す〉「クリュー　スマフゥツンカイ　ノース」[kuɾju:　sïmafutsïŋkai　no:sï]

③「に」を添えた人なり事柄なりを標準にして、それに持って行って添えるという趣がある。子の場合普通「に」は格助詞「と」になる。◎〈あの人に(と)途中で会った〉「カインカイドゥム゜ツナカン　ウーティー　イデョーター」[kaiŋkaidu mtsïnakan u:ti:　idjo:ta:]

④人を目当てにして動作の向けられる相手。◎〈そんなことは他人には言えない〉「アンチヌクトー　プストゥンカイヤ　アンザイン」[antʃinu kuto:　pïtuŋkaija andzaiŋ]◎〈彼に頼めばよい〉「カインカイ　タヌミバドゥゾーカー」[kaiŋkai　tanumibadu　dzo:ka:]

○格助詞「に」に、～ンカイ[ŋkai]・～ン[n]の両方が使われる。

①動作の手段としてのよりどころ。◎〈親戚にすがって生活する〉「ウツゥッツァン(ンカイ)スガリー　トゥムツ　スス」[utsutstsan sïgaɾi:　du:mutsï　sïsï][utsutstsaŋkai sïgaɾi:　du:mutsï　sïsï]◎〈机に持たれて眠る〉「ツクイン(ンカイ)　ムタイー　ニヴ」[tsïkin　mutai:　niv][tsïkiŋkai　mutai:　niv]

②比較の標準としてのよりどころ。◎〈何から何まで母に似ている〉「ノーカラノーガミ　アンナン(ンカイ)ドゥ　ンーダカリー　ウー」[no:kaɾa　no:gami　annan(ŋkai)du n:dakaɾi:　u:]◎〈彼の背丈は君に近い〉「カイガ　タキャー　ヴヴンドゥ　ツカカー」[kaiga takja:　vvan(ŋkai)du　tsïkaka:]

③割り当て割合を示す。◎〈二人に一人ぐらいは来る〉「フターイ゜ン(ンカイ)　タヴキャーバカーイ゜ッサ゜　アタイ゜ドゥス」[futa:ïn(ŋkai) tavkja:bakaïzza　ataïdusï]

ングスグリ[ŋgïguɾi]〈動詞〉抜き難い。〈ハエキビは根っこが強くて抜き難い〉「ナザクスッサ゜ニーヌ　ツゥカイバドゥ　ングスグリーヌ」[nadzakïza　ni:nu　tsukaibadu ŋgïguɾi:nu]

ングスカニ[ŋgïkani]〈連語〉抜き兼ねて。〈太い釘は抜き兼ねる〉「ウプ　フゥグスッサ゜ングスカニドゥ　スス」[upu　fugïzza　ŋgïkanu sïsï]

ンクスザラ[ŋkïdzaɾa]〈名詞〉神酒を飲む皿。〈神酒を飲む皿は特別の皿です〉「ンクスッス゜ゥ　ヌム゜サラー　ンクスサラティドゥ　プカンアーター」[ŋkïzzu　numsaɾa:　ŋkïsaɾatidu pukan　a:ta:]

ンクスタリ[ŋkïtaɾi]〈名詞〉神酒造り。〈昔は神に捧げる神酒造りは未婚の若い女性が生米を噛んで唾液で発酵させて製造したと以前私は聞いた〉「ンキャーンナ　カム゜ンカイ　スキ　ンクスス゜ゥバー　ササギュー　スゥーンマイヌバカ　ミドゥンヌキャーヌドゥ　ナママイ゜ッスゥ　カンダリー　ユダイ゜シー　ンクスタリー　ススターティドゥ　バヤー　マインクスクスターサイ」[ŋkja:nna　kamkai　sïki ŋkïjuba:sasagju:　su:mmainu　baka midumnukja:nudu　namamaïzzu　kandaɾi: judaïʃi:　ŋkïtaɾi:　sïsïta:tidu　main baja:　kïkïta:sai]

ンクスバナ[ŋkïbana]〈名詞〉軒下。〈軒下は雨宿りする所だよ〉「ンクスバナー　アミグマイ゜　ス　ドゥクマサイ」[ŋkïbana:　amigumaï sïsï　dukumasai]

ンクスバナムス[ŋkïbanamusï]〈名詞〉頭足類。ヤスデ。軒下の湿った所に生息することが多い。

ンクスム゜[ŋkïm]〈名詞〉にきび。<ニキビは青春のシンボルなんだよ>「ンクスム゜マ　バカムヌティヌ　クトゥサイ」[ŋkïmma bakamunutinu kutusai]

ンクッツ[ŋkutstsï]〈動詞〉子どもがむずかる。幼児が焦れて泣く。<眠たくて子どもがむずがる>「ニヴタカイバドゥ　フファヌ　ンクッツ」[nivtakaibadu ffanu ŋkutstsï]

ンクフゥ[ŋkufu]〈動詞〉差し込む。突き入れる。<穴に指を突っ込んだら抜けなくなるぞ>「アナンカイ　ウイビュー　ンクフゥツカー　ンガインフゥ　ナイ゜ム゜ドー」[anaŋkai uibju: ŋkufutsï: ŋgainfu naïmdo:]

ンクフィ[ŋkufi]〈動詞〉差し込め。突っ込め。<穴の蟹は棒を突っ込んで追い出せ>「アナヌカンヌバー　ボーユ　ンクフィー　ウイダシ」[ananu kannuba: bo:ju ŋkufi: uidaʃi]

ンクム゜[ŋkum]〈動詞〉力む。気張る。力をこめる。腹に力を籠める。<人は糞する時は皆力む>「プストー　フゥスゥー　マイ゜トゥキャーンナム゜ーナ　ンクム゜ドゥス」[pïto: fusu: maïtukja:nna ŋkumdusï]

ンコー[ŋko:]〈動詞〉立ち向かう。顔を合わせる。<顔を合わせたら話もできる>「ンコーツカー　パナスマイ　シライドゥス」[ŋko:tsïka: panasïmai ʃiraidusï]

ンコー[nko:]〈動詞〉挑戦する。立ち向かう。<出来ないと思っても挑戦しなさい>「シラインティー　ウムイヤーマイ　ンカイ　ミール」[ʃirainti: umuija:mai ŋkaimi:ru]

ンコーカニ[ŋko:kani]〈連語〉顔合わせ兼ねて。<彼は恥ずかしがり屋だから顔を合わせ兼ねている>「カリャー　バスカムヤ　ヤバドゥ　ンコーカニ　ウー」[karja: padzïkasamuja jabadu ŋko:kani u:]

ンコーカニ[ŋko:kani]〈連語〉挑戦し兼ねて。立ち向かい兼ねて。<彼は怖がって挑戦し兼ねている>「カリャー　ウーヴヴィドゥ　ンコーカニ　ウー」[karja: u:vvi:du ŋko:kani u:]

ンザ[ndza]〈名詞〉どこ。どちら。◎<どこの浜に行くのか>「ンザヌ　パモーガ　フゥマディリャー」[ndzanu pamo:ga fumadirjaa:]◎<どこが君の家か>「ンザヌガ　ヴヴァガ　ヤーヤバ」[ndzanuga vvaga ja:jaba]◎<君はどこから来たが>「ヴヴァー　ンザカラガ　クスタリャー」[vva: ndzakaraga kïsïtarja:]

ンザ～[ndza]〈名詞〉どこ～。◎<彼はどこの人か>「カリャー　ンザプストゥヤバ」[karja: ndzapïtujaba]◎<君はどこの出身か>「ヴヴァー　ンザスマ　ム゜マリヤバ」[vva: nszasïma mmarijaba]

ンザンザ[ŋdzandza]〈連語〉どこどこ。<それぞれが行く場所はどこどことはっきり教えなさい>「ドゥーナーガ　イクスガマタヌ　トゥクノーバ　ンザンザティー　マサーガン　ナラーシ」[du:na:ga ikïgamatanu tukuno:ba: ndzaŋdzati: masa:gan nara:ʃi]

ンザガー[ndzaga:]〈名詞〉どこかね。<彼の家はどこかね>「カイガ　ヤーヤ　ンザガー」[kaiga ja:jandzaga:]

ンザガミマイ[ŋg]〈連語〉どこまでも。<どこまでも君と一緒に行く>「ンザガミマイ　ヴヴトゥマーツキ　イカディ」[ndzagamimai vvatu ma:tsïki ikadi]

ンザカラ[ŋdzakara]〈名詞〉どこから。<君はどこが来たのか>「ヴヴァー　ンザカラガ　クスター」[vva: ndzakaraga kïsïtarja:]

ンザカラガ　バタフゥサリリガ[ndzakaraga batafusariga]〈連語〉無性に腹が立つ。<彼の無礼に無性に腹が立つ>「カイガ　ブリーンナンザカラガ　バタフゥサリガ」[kaiga buri:nna ndzakaraga batafusariga]

ンザカラマイ[ndzakaɾamai]〈連語〉どこからも。〈どこからも風は吹いていない〉「ンザカラマイ　カジャー　フゥキャー　ウラン」[ndzakaɾamai kadʒa:　fukja:　uɾaŋ]

ンザカラ　ンザガミ[ŋdzakaɾa　ndzagami]〈連語〉どこからどこまで。〈どこからどこまでが君の畑か〉「ンザカラ　ンザガミガ　ヴヴァガ　バリヤバ」[ndzakaɾan dzagamiga　vvaga　paɾijaba]

ンザガラー[ndzakaɾa:]〈名詞〉どこかに。〈財布はどこかに置いたが思い出せない〉「ジンフゥクルーバー　ンザガラーン　ウツクスタースゥガドゥ　ウムイダサイン」[dʒinfukuɾu:ba:　ndzagaɾa:n　utsïkïta:sugadu　umuidasaiŋ]

ンザガラープストゥ[ndzagaɾa:pïtu]〈名詞〉どこかの人。所在の分からない人。〈どこかの人だけど、どこの人だかわからない〉「ンザガラープストゥ　ヤスゥガドゥ　ンザヌプストゥガラ　スサイン」[ndzagaɾa:　pïtujasugadu ndzapïtugaɾa　sïsaiŋ]

ンザナギュー[ndzanagju:]〈名詞〉どの辺を。〈彼は今頃どの辺りを歩いているだろう〉「カリャー　ンナマナギャー　ンザナギューガ　アイ゜キューガラヤー」[kaɾja:　nnamanagi ndzanagju;ga　aïkju:gaɾaja:]

ンザヌ　プストゥヤリャー[ndzanu　pïtujaɾja:]〈成句〉どこの人か。どこの生まれですか。〈君はどこの生まれですか〉「ヴヴァー　ンザヌプストゥヤリャー」[vva:　ndzanu pïtujaɾja:]

ンザム゜マリ[ndzammaɾi]〈連語〉どこの生まれ。出身地。〈君はどこの生まれか〉「ヴヴァー　ンサム゜マリヤバ」[vva:　nszammaɾijaba]

ンザーンカイマイ[ndza:　ŋkaimai]〈連語〉何処にも。〈ここからどこにも行くな〉「クマカランサーンカイマイ　イクスナ」[kumakaɾa ndza:ŋkaimai　ikïna]

ンザーンマイ[ndza:ŋmai]〈名詞〉何処にも。〈探したけど何処にもいない〉「トゥミタースゥガドゥ　ンザーンマイ　ウラン」[tumita:sugadu ndza:nmai　uɾaŋ]

ンザタナギ[ndzanagi]〈名詞〉どの辺。〈どの辺りに君の家はあるか〉「ンザタナギンガ　ヴヴァガ　ヤーヤ　アリャー」[ndzatanagiŋga vvaga　ja:ja　aɾja:]

ンザティー　ニャーダナ[ndzatja:　ɲa:dana]〈連語〉〈所かまわず唾を吐くな〉「ンザーテャーニャーダナ　トゥパクス　パクスナ」[ndzatja:　ɲa:dana tupakïzzu　pakïna]

ンザナギ[ndzanagi]〈名詞〉どこの辺り。〈君の家はどこの辺りか〉「ヴヴァガ　ヤーヤ　ンザナギヤバ」[vvaga　ja:ja　ndzanagijaba]

ンザヌ[ndzanu]〈名詞〉何処の。〈彼はどこの人ですか〉「カリャー　ンザヌ　プストゥヤバ」[kaɾja:　ndzanu　pïtujaba]

ンザバーキ[ndzaba:ki]〈副詞〉どこまでも。〈どこまでも歩く〉「ンザバーキ　アイ゜クス」[ndzaba:kï　aïkï]

ンザマイ[ŋdzamai]〈名詞〉どこも。〈どこも同じような家ばかりだね〉「ンザマイ　ユヌンダカリーヌ　ヤーバカーイ゜サイガ」[ndzammai junundakaɾi:nu　ja:bakaïsaiga]

ンザン[ndzan]〈名詞〉何処に。〈僕はどこに寝ればよいか〉「バヤー　ンザン　ニヴヴィバガ　ゾーカリャー」[baja:　ndzan　nivvibaga dzo:kaɾja:]

ンザンガ[ŋdzaŋga]〈名詞〉何処に。〈財布はどこに置いてあるか〉「ジンフゥクルーバー　ンザンガ　ウツキューキャー」[dʒinfuɾu:ba:　ndzaŋga　utsïkju:kja:]

ンザンカイ[ŋdzaŋkai]〈名詞〉何処へ。〈君の家にはどこへ行けばよいか〉「ヴヴァガ　ヤーヤ　ンザンカイ　イキバガ　ゾーカリャー」[vvaga ja:ja　ndzaŋkai　ikibaga　dzo:kaɾja:]

ンザンカイガ[ŋdzaŋkaiga]〈連語〉何処にか。何処に行くのか。〈君はどこに行くのか〉「ヴヴァー　ンザンカイガ　イクsガマタヤバ」[vva:　ndzaŋkaiga　ikïgamatajaba]

ンヌツヌ　アリューキャーヌ　ミャーク[ŋnutsïnu aɾju:kja:nu　mja:ku]〈連語〉命があるからこその幸せ。〈命があるからこその幸せ。しっかり百歳をめざそう〉「ンヌツヌ　アリューキャーヌ　ミャーク　ワイティー　ピャークヌ　ム゜ツツゥマイ　マヴヴァイディ」[nnutsïnu　aɾju:kja:nu　mja:ku waiti:　pja:kunu　mtstsumai　mavvaidi]

ンヌツヌ　フゥキ[ŋnutsïnu　fuki]〈動詞〉命がすり抜ける。息絶える。死ぬ。〈彼の命が絶えるのも知らなかった〉「カイガ　ンヌツヌ　フゥキ　フゥツツゥマイ　スサッタム゜」[kaiga nnutsïnu　fuki　futstsumai　sïsattam]

ンヌツナガムヌ[ŋnutsï]〈名詞〉長命。長生き。〈長生きは健康であればこそだ〉「ンヌツナガムノー　ガンズゥーカイバドゥ　ダラ」[nnutsïgagamuno:　gandzukaibadudaɾa]

ンヌツヌ　アーナギ[nnutsïnu　a:nagi]〈連語〉一期。一生涯。〈君とは一生涯の友だ〉「ヴヴァトー　ンヌツヌ　アーナギヌ　ドゥスサイ」[vvato:　nnutsïnu　a:naginu　dusïsai]

ンーンー[ŋ:n:]〈感動詞〉いいえ。いやです。同僚や目下に対し軽く首を横に振って相手の言うことが違っていることや相手の要求を受け入れられない意思を示す。〈いいえ、あなたの言うことは間違っています〉「ンーンー　ヴヴァガ　アンジュークトー　チガイドゥー」[n:n: vvaga　andʒu:kuto:　tʃigaidu　u:]

ンーナカアガム゜[n:nakaagammi]〈屋号〉野原集落。午組。久貝貞江家屋号。

ンーナカアガム゜[n:nakaagammi]〈屋号〉野原集落。午組。久貝守家屋号。

ンーナカアガム゜[n:nakaagammi]〈屋号〉野原集落。午組。久貝清智家屋号。

ンーナカアガム゜パイ゜ディヤー[n:nakaagammipaïdija:]〈屋号〉野原集落。午組。久貝清家屋号。

まとめ

〈宮古の学校教育おける方言の取り組み〉

文化庁委託報告書によると琉球方言圏における「危機的状況にある言語、方言の保存継承に関わる取り組み等の実態に関わる調査研究事業」があるが、その中に宮古地域の学校における活動例が報告されている。佐良浜小学校における実践は、とても興味のある内容である。その内容は、方言の定義を示しながら、多義にわたる内容の実践がなされている。まず身近な言葉として人体の全ての個所の方言を皆で話し合うことがなされている。人体の方言であれば自分が方言を使用しなくても佐良浜地域であれば家族の会話の中に普段に交わされる身近な言葉なので生徒たちも参加しやすい取り組みである。実践を広げて「金子みすずの詩」を地域の年寄りに佐良浜の方言に訳してもらい皆で鑑賞する取り組みは興味がある。

私も方言を残す取り組みとして山之口獏の「布団」という詩を野原方言に訳して報告したことがあるが、原詩よりも何か親しみを感じた思いがあった。いろいろな取り組み方によっては学校でも多様な実践が可能と感じた。

〈方言辞典を編纂する意義〉

以前から方言研究に携わる者としては、調査で接する人々の年齢が年ごとに高齢者に偏ってきていることで方言の話せる年代が限られてきていることは実感していた。ユネスコが発表した方言危機的状況の実態をみると改めてその危機を実感せざるを得ない。学生の時に方言研究で著名な中曽根政善先生に出会い方言の豊かさに目覚め、細々と研究活動続けてきた。宮古の小中学校

で方言札とともに子ども時代を大らかに謳歌した者としては、一抹の寂しさを感じるとともに、やはり方言が生き残るというよりも少しでも残していく手立てを講じなければと思うようになった。宮古全体ではその趣旨でいくつかの宮古方言に関する辞典が発刊されている。富浜定吉氏の伊良部方言辞典があり、池間や佐良浜、多良間などの離島の方言辞典がある。宮古本島では城辺シマフツ辞典、久松方言集がある。最近、沖縄在住の人たちが中心になって精力的に活動している「みゃーくふつの会」の定例学習会に参加し、国語国立研究所特任助教授のセレック・ケナン氏の「宮古の言葉のことばの多様性と画一性」、2025 年度「危機的な状況にある言語・方言サミット」八重山大会の報告。宮古方言研究者の野原優一氏の「宮古語表記表」、沖縄国際大学教授・下地賀代子氏の「比べてみようタラマフツとミャークフツ　～南琉球をつなぐことば～」を拝聴する機会があり、宮古本島全体を網羅する宮古語辞典の必要性を改めた痛感した。

〈方言よって喚起されるアイデンティティー〉

方言はその地域を作り、祭りを司り、五穀豊穣の祈りを捧げるツールとして大きな役割を担ってきた。数多くの方言辞典を見るとその中には方言を通してその地域の歴史や風俗、芸能など、そこに暮らす人々の生活が見える。方言によって喚起されるアイデンティティーが感じられのである。宮古島全体の方言を網羅する宮古方言辞典があれば、言語を研究する資料としてだけではなく、その地域の方言を通して地域を知るという教育実践に利用することができる。私が今進めている宮古語辞典の編集作業においては、国語辞典的な単語を示し、意味を解説するだけではなく、示された方言から、方言を使用していた人々の生活が垣間見えるように用例文を提示することにしている。従って、用例文には私が子ども頃、地域の中で夢中になって遊んだ出来事や汗を流して手伝った農作業や家畜の世話や草刈りなど、そこで使った方言、生活語を用いている。収録する全ての語彙に、そこで暮らす人々の生活が見えるような文例を語彙ごとに編集するつもりである。出来上がりを楽しみにしながらも、辞典づくりで苦労した先輩たちの話を聞くと不安もあるが、子どもの頃は、学校で方言札を数え切れない程、首にかけなから伸び伸びと過ごした故郷の方言の危機的状況を少しでも改善できるようという思いは持ち続けたい。

主要参考文献

仲間　博之、田窪　行則、岩崎　勝一、五十嵐陽介、中川　奈津子
2022 年　南琉球語「池間方言辞典」国語国立研究所
本永　守靖
1994 年　「琉球圏生活語の研究」春秋社
島尻　澤一
1983「琉球宮古方言の助詞　―野原方言の助詞 ga と nu を中心に―」琉大国語 2 集　琉球大学国語学研究会
1984「琉球方言宮古野原方言の音韻の研究」琉大国語 3 集　琉大国語学研究会
2021「宮古城辺方言の音韻の研究―旧城辺町史のための調査資料中心に―」宮古島市総合博物館紀要・第 25 号
2011「宮古島市西里方言の音韻」宮古の自然と文化・第 3 集・宮古の自然と文化を考える会
2022「古代日本語助詞と琉球宮古方言助詞の比較研究」宮古島市総合博物館紀要・第 26 号
富浜　定吉 2013「伊良部方言辞典」沖縄タイムス社
奥平　博尚
1996 年　「宮古方言の散歩道、平良的表現」(株)新法出版

謝敷　正市
2015 年「ユナンダキスマ　むかしの暮らし」宮古島市史資料 6　宮古島市教育委員会。
2011 年「城辺スマフツ辞典」（下巻）宮古島市教育委員会　具志堅印刷
昭和 50 年「沖縄語辞典」国語国立研究所
仲宗根　政善
昭和 58 年「沖縄　今帰仁方言辞典」角川書店
城辺町教育委員会
2003 年「城辺町シマフツ辞典・上巻」城辺町シマフツ研究会
中松　竹雄
昭和 51 年「南島方言の奇術的研究」根本書房
本村　満　本村　洋子
2014 年「続　こやこのことば」野原集落（旧上野村）の方言を中心に
与那覇　ユヌス
2003 年「宮古　シマフツ辞典」沖縄コロニー印刷
久松方言保存会
2020 年「久松方言集」（株）近代美術
琉球大学沖縄文化研究所
1968 年「宮古諸島・学術研究報告書・言語・文学偏」株式会社　旭道